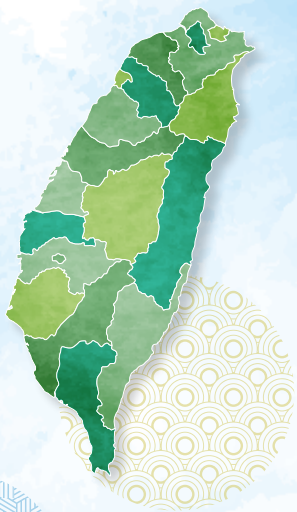




第21回

日台文化交流 青少年 スカラシップ



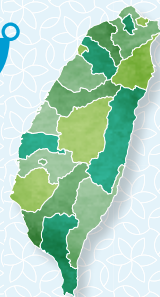
〔 実施報告書 〕



日本と台湾の新時代を拓く



日台文化交流 青少年スカラシップ



実施報告

日本と台湾の青少年による文化交流の促進を目指す「第21回日台文化交流 青少年スカラシップ」。今回は作文部門に加えて、ツアープラン部門を新設し、独自の作文と4泊5日のツアープランを募集。作文部門に542名、ツアープラン部門に109名、合わせて651名の応募がありました。

第20回より受賞者による台湾研修旅行が復活。大賞と優秀賞の計8名の学生が、3月22日から26日まで台湾を訪れ、現地学生との交流や政府機関への訪問を実施し、日台の交流をより深めました。また、ツアープラン部門大賞作品の一部を実際の研修旅行で訪問しました。

審査委員

審査委員長 渡辺 利夫 拓殖大学 顧問

作文部門審査委員

黄明珠 台北駐日経済文化代表処 広報部 部長
阿古 智子 東京大学大学院 教授
林 翠儀 自由時報 東京特派員
河崎 眞澄 東京国際大学 国際関係学部教授
桑村 朋 産経新聞 編集局

ツアープラン部門審査委員

黄明珠 台北駐日経済文化代表処 広報部 部長
鄭憶萍 台湾観光庁 東京事務所 所長
矢板 明夫 インド太平洋戦略シンクタンク 事務局長
千葉 信一 日本旅行業協会(JATA) 海外旅行推進部 担当部長
片倉 佳史 武蔵野大学客員教授・台湾在住作家

※敬称略・順不同 ※2025年3月現在

入賞者

作文部門

大賞

亀山 紗来 広尾学園高校 2年

優秀賞

岩坂 麻侑 早稲田摂陵高校 2年
宮崎 大輔 和歌山県立桐蔭高校 1年
横山 愛 高知県立高知国際中学校 3年

奨励賞

柳澤 珠莉 渋谷教育学園渋谷高校 2年
関 広信 創価高校 3年
梶原 光莉 射水市立小杉中学校 1年
繁田 莉々子 東京国際大学 2年
久保 凜々子 慶應義塾ニューヨーク学院高校 2年
千葉 朱雀 名古屋商科大学 1年

ツアープラン部門

大賞

長南 陽向 福島大学附属中学校 1年

優秀賞

山本 旭隼 高槻高校 2年
小平 暖己 慶應義塾大学 2年
江島 未彩 早稲田実業学校高等部 3年

奨励賞

久木元 はな 東京学芸大学附属高校 2年
田部井 悠太 昌平高校 2年
高畠 孝太郎 立命館慶祥中学校 3年
石川 己修 岩倉高校 2年
堀切 咲希 市川学園中学校 3年
長昌 那々子 university of sussex大学院 1年

※順不同 ※学校名・学年は2025年3月現在

主催：産経新聞社

共催：台北駐日経済文化代表処

協賛：JR東海

MITSUI & CO.

EVA AIR

台湾新聞
台湾と日本の架け橋 日本語と英語の両方で読める台湾新聞

協力：外交部 教育部 台湾日本関係協会

TAIWAN
WAVES OF WONDER

台湾観光庁

後援：

公益財団法人
日本台湾交流協会
Japan-Taiwan Exchange Association

自由時報

祝 辞

自分なりの 台湾の歩き方・学び方

台北駐日経済文化代表処 代表 **李 逸洋**



皆さん、第21回「日台文化交流 青少年スカラシップ」のご受賞、誠にありがとうございます。

「日台文化交流 青少年スカラシップ」はまた次の十年に向けて、新たな「ページ」を開きました。今年は作文部門のほか、ツアープラン部門を新設しました。台湾への4泊5日のツアープランを組み立てるため、皆さんは、台湾にある日本時代の建築、各地の温泉、多様な食文化など、自分が興味を持つ分野の資料や情報を集めました。その作業を通じて、台湾の文化や歴史、社会情勢などについて、より多く、深く、詳しく台湾を知ることができたでしょう。皆さんのツアープランと作文を拝見したところ、まさに十人十色であり、自分なりの台湾の歩き方と学び方であると言えます。各々が面白いと思うことが台湾をもっと知りたいきっかけとなり、糸口となるその分野から入り、将来、台湾のことをより深掘りしたいという好奇心に発展していければ、台湾の駐日代表として、これ以上にうれしいことはありません。

先日、日本台湾交流協会が発表した「台湾における世論調査」によると、台湾人の81%が日本に親しみを感じていると答えました。当代表処が昨年に実施した「日本人の台湾に対する意識調査」でも、76.6%の日本人が台湾に親しみを感じています。台日双方がお互いに強い好感を抱いているのは、長年にわたる各世代の交流の成果だと言えます。

その双方向の好感度があるゆえ、台湾と日本の間には厚い信頼が築かれており、半導体産業をはじめとするさまざまな分野において深い連携関係が形成されています。これから始まる「AI時代」においても、台湾と日本の若者世代から手を携えて協力し、共に両国の明るい未来を創り上げることができると信じています。

今後、当代表処は、「日台文化交流 青少年スカラシップ」を通じて、次の世代に台日友好関係を伝承していく所存です。

未来を見据えて、皆さんが将来の台日関係の架け橋となることを、心より期待しております。

ありがとうございました！

経験を経験知にしよう

拓殖大学 顧問 渡辺 利夫



皆さんは、私に比べればはるかに若い方々ですが、それでも学園生活、クラブ活動、地域社会活動、海外研修など、さまざまな場でのいろいろな経験をおもちですよ。しかし、そうした経験もこれを文章化しなければ、ほとんどが人生のささやかな経験として流れ去ってしまいます。

経験はこれを文章化することにより、初めて「経験知」となるのです。経験を経験知とすることにより、初めてそれらの経験は私どもの人生にとって意味あるものとして積み上がっていくのです。この経験知の積み上げが実は私どもの「人生量」なのです。限りある人生をより大きな人生量にするためには、経験を経験知としてこれを積み上げることが欠かせません。

亀山紗来さんの作品「正解のない時代に挑む、私なりの考え〜日台関係と私の役割〜」を共感をもって読みました。同世代の中国人や台湾人との交流の経験を通じて、相互が理解し合うことの難し

さ、また理解し合えた時の喜びを、亀山さんは実に豊富な語り口で語っています。経験を文章化することによってこれを経験知として積み上げること、この意味を、亀山さんはすでに体得しているように思われます。今後とも経験を文章化するという知的な作業をつづけてください。

日台文化交流 青少年スカラシップも20回を超えました。そこで新しい試みとして、限られた日程と予算の中で台湾を旅行するプランを作成してもらい、優れたプランを顕彰しようとして私も考えました。原稿用紙に書かれた多くのユニークなプランを眺めながら、審査員一同大いに楽しませてもらいました。長南陽向さんの「台湾一周。台湾を愛した日本人と日本統治時代の台湾を学ぶ旅。」が大賞に選ばれました。日本統治時代の台湾が目につくように記述されていて、審査員全員が致してこのプランを推薦しました。

受賞 コメント

作文部門

大賞



広尾学園高校 2年
亀山 紗来

日台の文化が奏でる 「化学反応」

この度は第21回日台文化交流青少年スカラシップ作文部門において、大賞を頂き光栄に思います。私にとって、この受賞は5年以上過ぎた台湾という土地に対する深い思いと、日台間の文化交流への貢献の一環として、大きな意味を持つ瞬間です。

私は幼少期に台北市と上海市に5年ずつ住んでいました。紗来さんという名前は台湾のお寺で占って頂き、付けられた名前です。中国本土、台湾、日本ではそれぞれ使われている漢字が異なるので、亀山紗来、龜山紗来、龜山紗来と微妙に画数や形が違った名前を使ってきました。これまで三つの違う場所に住んできて、異なる文化に触れ、適応する中で、多様な意見を理解し、尊重する力を養いました。異なる背景を持つ人間が新しいものを生み出すこと、私はこれを「化学反応」と呼んでいます。そしてこれは、

信頼や理解を生み、より良い社会をつくる原動力になります。多様性があります重要視されるなかで、このような交流こそが、対立ではなく共存を選ぶ社会を育む鍵になると考えます。

私は、持続可能な未来の実現にこの「化学反応」の連鎖は欠かせないと思います。その延長線上で、私が強く関心を寄せているテーマのひとつが「平和」です。平和の反対は、戦争ではなく、「平和ではない状態」だと私は考えています。私は、平和はただ争いがないというだけではなく、人々が等しく人権を持ち、人間らしく生きられる環境があつてこそ、真の平和だと思っています。そしてそのためには、異なる世代や文化、背景を持つ人々が積極的に交流し、理解し合うことが欠かせません。

こうした「化学反応」を生み出すには、私たち一人ひとりが「主体的」である必要があります。「平和をつくる」「社会問題を解決する」と言葉にするのは簡単ですが、実際に行動に移すのは難しいです。それでも私は、少しずつでも行動することとを大切にしたいと思い、このようなコンテストに応募させていただきました。今回の受賞を励みに、これから日台の架け橋のような存在を目指して、歩んでいきたいと思っています。

優秀賞

高知県立高知国際中学校 3年
横山 愛



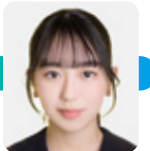
優秀賞

和歌山県立桐蔭高校 1年
宮崎 大輔



優秀賞

早稲田摂陵高校 2年
岩坂 麻侑



優秀賞を頂いて 考えたことと誓ったこと

この度は優秀賞に選出いただきありがとうございます。産経新聞から受賞の連絡をつけたとき、わたしは嬉しただけでなく、これは相当な覚悟が必要なんだと感じ、背筋がのびました。今回の応募に際し、わたしは台湾について勉強しました。そして現代の台湾では外省

深める

この度は日台文化交流青少年スカラシップにおきまして優秀賞という素晴らしい賞に選出いただき、光栄に思っています。

私が台湾に興味を持つきっかけは、台湾高鐵。以前から鉄道が好きで、ネットで鉄道について調べていると台湾にも新幹線があることを知り、台湾高鐵に興味を持つようになりました。

私の新たな可能性を求めて

この度は優秀賞に選出いただき、ありがとうございます。私は今回の作文を書くことがきっかけで日台関係を学んだので、正直、自分の作文に自信はありませんでした。なので、私の大好きな「踊り」を通して視野を広げたいという思い、一筋で作文を書きました。自分の作文が優秀賞

人本省人を超越する天然独世代が育ってきていること、台湾人としてのナショナルリズム、約10年前のヒマワリ学生運動などを知り、頑張つて応募しました。

今回、その文章を評価していただいたのだから、さらに若い世代としても二歩進んだ日台交流を盛り上げなければ、と密かに誓っています。

ました。台湾高鐵の車両は元々日本の新幹線で活躍していた車両を使用するなどの日本の新幹線技術を導入しています。そこから台湾の鉄道に関心を持ち、日本と台湾の鉄道交流や交通にとどまらず、台湾の政策にも興味を広がりました。今回の受賞を励みに、これからも日本と台湾の文化や技術交流について学び、考えを深めていきたいと思っています。

に選ばれたと知った時は、驚きのあまり、すぐに受け入れることができませんでしたが、時間が経つにつれて「自分の強い思いが審査員に伝わったんだ」と実感し、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。この賞を励みに、失敗を恐れず、たくさんの方に挑戦し、自分自身をもっと成長させていきたいです。

受賞 コメント

ツアープラン部門

私が、「産経新聞・日台スカラシップ」に応募したきっかけは、台湾を舞台とした映画の「KANO」を見たことでした。最初は父が車に乗っているときにDVDをつけていたのですが、私も、映画を見ていくうちに台湾に興味を抱くようになりました。「KANO」には、台湾で活躍した日本人が複数でてきていたのも、それをもとに台湾で活躍した日本人のことを学ぶことができるツアープランを計画しました。初めは、台湾について書かれている本を読んだり、ネットで台湾の情報を集めたり、ツアープランを立てることに苦戦しましたが、台湾について調べていくうちに興味が深まり、ツアープランを計画することがとても楽しくなっていました。時間をかけて作ったツアープランだったため、大賞をいただくことができてとても嬉しかったです。なかなか実感が湧きませんで

したが、名誉ある賞を受賞できて、ツアープランの作成に挑戦してみてよかったと思いました。研修旅行では、実際に自分がツアープランに入れていた場所にも、行くことができ、本やネットで見ていたり、調べていたりしたことも、実際に行ってみることで、建物の大きさや観光地の雰囲気を感じることができて、有意義な時間を過ごすことができました。観光ではなかなか行けない行政機関などでお話を伺えて、台湾の知らなかったこと、本やインターネットには載っていないことを新たに知ることができました。また、ガイドの方が細部まで丁寧に教えてくださったため、台湾の知識を広げることができて良かったです。昼食や夕食の際には、いろいろな方から台湾について多面から詳しく伺うことができて貴重な時間を過ごすことができました。研修旅行では中国語が話せない、人とコミュニケーションがとれるか、など心配していたことは多々ありましたが、周囲の方が、台湾の方が、親切に接してくださったことで、研修旅行を楽しむことができました。また機会があれば台湾に家族と、観光しに行きたいと思いました。この度は受賞させていただきありがとうございます。

大賞



福島大学附属中学校 1年

長南 陽向

台湾研修旅行に 参加して学んだこと

私が、「産経新聞・日台スカラ

優秀賞

早稲田実業学校高等部 3年
江島 未彩



優秀賞

慶應義塾大学 2年
小平 暖己



優秀賞

高槻高校 2年
山本 旭隼



成長は作品とともに

この度はツアープラン部門優秀賞に選出していただき、ありがとうございます。昨年に引き続き評価していただけたこと、大変光栄に存じます。ツアープラン作成にあたり、私は台湾を基礎から徹底して学ぶよう心がけました。そこで得た知識はこれだけにどどまらず、まさに一生の宝物にな

ると確信しています。昨今世界情勢はめまぐるしく変化しており、その中であふれる大量の情報に人々は翻弄されつつあります。そうした場面で重要なのは、情報を比較して選びぬき、確かな知識のもとに思考を巡らせることです。ツアープランの作成は、まさにその力を育てるものであったと深く感じます。

出会いと思い出に感謝して

この度はツアープラン部門において優秀賞を賜り、誠にありがとうございます。

研修旅行中は他の受賞者の皆さまや現地の方々との交流を通し、非常に有意義で思い出深い体験をさせていただきました。歴史を通して、複雑な国際情勢下においても個人同士が

国境を超え関わり合い、今日に至る日常を築いてきたその痕跡を現地で目撃することができたのは、私にとって非常に印象的でした。まだまだ見切れていない台湾をもっと知りたいという思いを一層強くしております。支えてくださいましたすべての方々により感謝申し上げます。

平和の波紋

このたびは、栄誉ある賞をいただき心より感謝申し上げます。太平洋戦争終結から80年という節目の年を迎え、台湾ツアーのアイデアを練る中で、台湾の本質に深く触れることができ、その魅力にますます惹かれました。「言葉」「波紋」。これは、私が高校3年生の夏に日本代表として

参加させていただいた子ども世界平和サミットでのスピーチを通じて実感したことです。一滴の水が広がるように、私の発信が誰かの心に届き、新たな対話へ。現代を生きる私たちは、誰もが平和の波紋となり得る存在だと確信しています。改めまして、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

台湾研修旅行 4泊5日の思い出

651名から選ばれた8名の学生は3/22~26の4泊5日の研修旅行に参加。

今回はツアープラン部門大賞作品のプランの一部を組み込み、第21回ならではの研修旅行となった。観光旅行とは違った行き先や現地の同年代との出会いで大きな学びと成長に繋がった5日間をご紹介します。

1・2日目

出発、そして台湾にふれる

東京・大手町のサンケイビル前に早朝集合した8名の学生たちは、最初こそ緊張の面持ちだったが、羽田に向かうバスが出発するころには打ち解け始め、呼び名を決め合うなど、すぐに和やかな雰囲気包まれた。男子3名、女子5名、中学1年~大学2年までと学年は異なるが、積極的に会話を楽しみながらエバー航空で台湾へと向かった。



国立台湾博物館。ツアープラン部門大賞の長南さんのプランを採用しました

到着後、最初に訪れたのは中正記念堂。バス移動中には現地ガイドの馬さんから中正という言葉の意味や、蒋介石とその建国以降の台湾の歴史についての解説を受けた。参加者からは敷地内に日本の桜が植えられた経緯などの質問があがり、堂内では巨大な蒋介石の像などを見学し、台湾の歴史的背景を学んだ。

2日目は気温25度近くの晴天で、まず林森公園を訪問。青々とした芝生が美しい公園は、かつてスラム街であった場所を整備したもので、日本の統治時代の鳥居が残されていることなどからも、複雑な歴史を物語っていた。



審査委員を務めた片倉氏と矢板氏から台湾について教えて頂く夕食会

続いて訪れた松山文創園區は、日本統治時代のレトロな雰囲気を残した建物群で隣接する台北ドームや雑貨ショップを巡りながら、最先端の台湾文化に触れた。学生たちは自由行動の中で、アート作品の展示や台湾雑貨のショッピングなどを楽しんだ。

スケジュール

3月22日(土)

- 羽田空港発 → 台北(松山空港)へ
- 中正記念堂 見学

3月23日(日)

- 林森公園 散策
- 松山文創園區 散策
- 台湾文学基地 見学
- 国立台湾博物館 見学
- 九份観光
- 片倉氏&矢板氏との夕食交流会

3月24日(月)

- 総統府見学
- 外交部 表敬訪問
- 教育部 表敬訪問
- 東呉大学キャンパスツアー&学生交流
- 西見台湾支局長との夕食交流会

3月25日(火)

- 台湾高速鉄道で台南駅へ
- 赤坂楼 見学
- 神農街 散策
- 国立台南大学附属高級中学 訪問
- 林百貨店でお買い物

3月26日(水)

- 台湾高速鉄道で台北駅へ
- 台北(松山空港)発 → 羽田空港到着
- 解散



外交部で台湾について学ぶ研修生たち

3日目

台湾の現在と未来を学ぶ一日

3日目は台湾の中枢を学ぶ1日。まずは総統府を訪れ、歴代総統の紹介やAI・半導体関連技術の展示など、台湾の歴史と未来の両面から学習。急ぎ足での見学となったが、学生達は展示の二つを写真に収め、今後の学びに活かそうとする姿勢を見せた。

続いて表敬訪問した外交部では、外交部日本総合事務課の李碧娟課長に対応頂き、学生からは台湾舞踊、大阪万博、国民性などについて多彩な質問が飛び交った。

学生から「台湾は多様性を重んじているが、だからこそ統一的なアイデンティティの確立

が難しいと感じるが、台湾人としてアイデンティティの確立についてどう考えるかと鋭い質問もあり、それに対して李課長は、「台湾人としての統一的なアイデンティティの確立は必要としておらず、様々なルーツを持つ人たちが住み、留学生などの外国から台湾にやってくる人を寛大に受け入れる姿勢が備わっている、そこそ台湾人の良いところだ」と答え、学生達も納

得の表情を見せた。教育部でも、台湾の教育制度や日本との留学交流についてレクチャーを受けた後、質疑応答が展開。学生たちは自ら中国語や英語を用いて自分の意見を伝える努力を惜しまず、職員からもその姿勢に高い評価が寄せられた。

午後には東呉大学での学生交流が行われた。ランチを食べながら、同世代同士が語り合い、国や文化を超えて友情が芽生えるきっかけに、「日中・台中の認識のズレを埋めるには何ができるか?」という問いに対し、「インターネット情報のみに頼らず、直接現地で人と話すことの重要性」など、真摯な意見交換がなされた。



東呉大学での学校交流。最後にはお互いのSNSを教え合う姿も

4・5日目

台南へ。歴史を学ぶ観光と学生交流

4日目は、JR東海の新幹線技術が採用された台湾高速鉄道に乗り、台南へ。

台北駅から台南駅までは105分間の移動で、日本の技術力の高さと信頼を実感しながら、学生達は新幹線の仕様の違いなどにも関心を寄せた。移動中は学生8人でディスカッションを自発的に行い、651人の中から選ばれた学生らしい、意欲的な向上心の高さを垣間見せた。

台南に到着後、赤崁楼を訪れ、オランダ人によって築城されたオランダと台湾文化が融合された建造物で、誕生400年を迎え母親が日本人というルーツをもつ鄭成功についての学びを深めた。赤崁楼内にある文昌閣では2枚の木の



台南までの移動中にディスカッションを繰り広げる意欲的な研修生8人



赤崁楼にて擲筊(ポエ)で運試し!



パン作りを通して一気に心の距離が縮まりました

板を落として神様からの参拝の許可を得るための擲筊(ポエ)で運試し。受験や試験を控える学生たちの中には特製のペンをもらうことが出来た学生も。

後半は、台湾南部の農業学校が前身である国立台南大学附属高級中学を訪問。農業・畜産・食品加工を学ぶ生徒たちとの交流が実現し、食品科の学生たちと一緒にパン作りを体験。言葉は通じずとも、翻

訳アプリなどを駆使しながら漫画の話題などで心の通じ合う時間を過ごした。

SNSアカウントを教え合うなど、現代の学生らしいコミュニケーションをとる様子もあり、今後の再会に期待を寄せた。

最終日は台北に戻り、4泊5日の思い出を振り返りながら、台北駅で日本へのお土産を吟味した。今回の研修旅行は新設されたツアープラン部門大賞作品の一部を組み込み、学生の意見も反映された旅行だったが、台湾への学びと日台関係に関心のある切磋琢磨できる仲間との出会いでもあった。解散の東京駅では仲間との別れに名残惜しさを見せながらも、これからの日台友好の未来と仲間8人の再会に期待を寄せ、それぞれの帰路についていた。



日本統治時代の建物である林百貨店で歴史を学びながらお土産選びも楽しみました

時を越え、成長と共に蘇る 台湾の記憶と愛

広尾学園高校 2年 亀山 紗来



久しぶりの九份（右から2番目が私）

再会したのは、記憶に生きる台湾

台湾の地に足を踏み入れた瞬間、幼い頃の記憶が蘇った。台湾の熱く湿った空気、そして懐かしい香りが街中に広がっている。蒸し暑さはもちろん、何よりも目に飛び込んできたのは、とんでもないバイクの交通量やあちこちに掲げられている中華民国の国旗。ここ



盛り上がった初日のバス

旅の始まりは、中

正記念堂。巨大な建物がひときわ目を引き、周囲の広場はどこか神聖な雰囲気

に包まれていた。広場には日本の桜が植えてあり、いかに日本と中

華民国の文化的繋がりが深いかかわかる。蒋介石の銅像の前に立った時、その壮麗さに圧倒され、思わず感嘆した。遠くに見える山々を背景に、堂々と佇むその姿は、まるで時代を超えて私たちに語りかける「生きた歴史」のようだった。蒋介石が向けて

中でしっかりと感じた瞬間だった。台湾は、遠くにある国ではない。私の心の中にしっかりと根を張った、あの懐かしい風景なのだ。12年前にここを離れてから、台湾は何も変わらず私の心に存在し続けていた。そして



中正記念堂

いるその視線は、諸説によれば、かつて帰ることが許されなかった祖国（中国）を向いているそう。台湾がどれだけ困難な状況乗り越えて、今日の繁栄を築いてきたのかを身に染みて感じた。

複雑な関係が生む台湾の未来の道筋

3日目に私たちは台湾の外交部（外務省）と教育部を訪れた。台湾と中国の間には、複雑で微妙な関係が横たわっている。外交部で、私はその緊張感とともに、台湾が抱えるジレンマを痛感した。台湾は、国際社会で独立を保ちながらも、中国との歴史的な繋がりを無視することはできない。現在の曖昧な立場も、いずれは明確な決断を迫られる時がくると私は思う。その中で台湾はどうしていくべきか、各国の間では何が必要なのか、平和的解決への道はあるのか、考えさせられた。

その後訪れた教育部で私が特に注目したのは、台湾が「台湾中心」の歴史教育をどのように進めてきたかだ。その背後にある深い思想と、外部の圧力に対する慎重な姿勢を感じ取る



教育部にて質疑応答

し合い、解決策を一緒に考えていくことが大事だと、教育部の方はおっしゃった。様々な社会問題が渦巻く現代社会で、国同士が交流をすることが平和かつ持続的な未来を構築するのにいかに大事なのかを学んだ。



台湾の高校生と交流

研修旅行で垣間見た 現代台湾の深層

早稲田摂陵高校 2年 岩坂 麻侑



中正紀念堂です。圧巻でした

今回は私にとって2度目の台湾！

私の初台湾は昨年の高校の修学旅行だった。事前に台湾のことを知っておこうと観た「ひまわり学生運動」についてのテレビ番組で現代台湾の素敵な側面を知り、実際に仲の良い友達と台湾の文化に触れることで台湾の魅力に取り憑かれた私は、学校の先生から紹介された日台スカラシップに応募した。そしてご縁をい

歴史と現在、そして未来に向かって

とうとう始まった研修旅行！新しい仲間とめぐる台湾は私の予想を大きく超えてきた。想像していなかった台湾。中華民国統治時代に始まり、日本が統治した時代。清朝が統治した時代。鄭氏が統治した時代。オランダが統治した時代。時系列ではないけれど、台湾がこれまでにたどった数奇ともいえるべき歴史を網羅した旅は、どれも光と闇を併せ持ったものであることをわたしに感じさせるのに十分なものであった。さらにわたしが強く心を動かされたのは、現代の台湾の人たちが、それらを捻じ曲げることなく、また排除も否定もせず、すべてを「自分たちの歴史」として正しく認識して、あるがままに受け止めていることだ。

ただき、今回の研修旅行に参加させていただくことになった。

送られてきた旅程表をみても、全く予想がつかない。ツアープラン部門の作品集を何度も見直して、学校の先生から借りた本を読んで、でも、予想がつかない！いわゆる観光名所じゃないところが多いのだ。期待と不安でいっぱいだった。



台湾上陸直後！

わたしにはこれほど不思議な感覚だった。ナショナルリズムという名の過剰なナショナルリズムによる歴史の歪曲や曲解は、情報社会と言われる現代においてさえも、世界中で行われている。

我が国においても、諸外国との歴史認識の違いによる意見の衝突が時に外交問題に発展することを経験している。



神農街にて。豪華絢爛な装飾でした

それなのに台湾の人々は自国の歴史を静かに俯瞰し、冷静に評価しようとしているのだ、と私は知った。そして、台湾の人々は過去を冷静に受け入れることができるだけの強さを持っている、と思った。

今回の研修旅行のもう一つのハイライトは、現在の台湾の人たちとの交流だった。

毎日、旅程の一部に台湾の人たちとの交流の場がセッティングされていた。そして交流する中で、台湾の人々の強さは「竹」のようだな、とわたしは感じた。

硬直した頑強さではない。真っ直ぐで、それでいてしなやかでよくしなる柔軟な強さ。

地政学的な困難さを常に意識しつつ、しなやかに国際社会の中を進ん



赤崁楼にて。なんとも可愛い像でした

新たな学び 台湾を感じた5日間

和歌山県立桐蔭高校 1年 宮崎 大輔



中正紀念堂にて

台湾高鐵で感じた日本との違い

四日目と五日目に台北駅から台南駅まで台湾高鐵に乗車し、日本の新幹線との違いを実感しました。まず、駅の雰囲気や日本と異なり、改札がシンプルで開放的だったことが印象的でした。日本の新幹線駅では、改札口に多くの自動改札機が設置され、厳格な入場管理が行われていますが、台湾高鐵では改札の構造が簡素で、全体的に開放感のあるデザインになっていました。



台湾の新幹線！(台湾高鐵)

また、車内の雰囲気も日本とは異なりました。日本の新幹線では、車内で静かに過ごすことが一般的ですが、台湾高鐵では乗客同士が気軽に会話を交わす姿が多く見られました。特に家族連れや友人同士のグループが談笑する様子が印象的で、鉄道が単なる移動手段ではなく、コミュニケーションの場にもなっていることを感じました。

さらに、車内販売の内容にも違いがありました。日本の新幹線では駅弁やお菓子、お茶などが販売されますが、台湾高鐵では日本では見かけない食品が多く並んでいました。例えば、台湾特有の甘い豆乳飲料や、台湾産のフルーツを使用したお菓子などが販売されていました。これらの違いから、台湾の鉄道にはその国独自の文化が色濃く反映されている



台北市内の夜

また、台湾高鐵の車両は日本の新幹線技術を導入していますが、運行スタイルやサービス面では台湾独自の発展を遂げています。同じ技術を用いていても、国ごとの文化や人々の価値観によって鉄道の使われ方が変わるということを学ぶ貴重な経験となりました。

日本と台湾の食文化の違い

研修中、台湾料理を囲んで食事をする機会が多くあり、日本の料理との味の違いに驚きました。特に印象に残ったのは、料理の甘さです。エビマヨにはパインアップルが入っており、さらにマヨネーズ自体も甘く、日本のものとは異なる味わいでした。また、台湾のソーセージは日本のものよりも甘く、最初に口に入れたときに驚きました。これは、台湾では砂糖を多く使う食文化があるためだと知り、料理の味付けにはその国の気候や特産品が影響している



二日目の昼食

ことに気がきました。この研修を通じて、日本と台湾の食文化の違いを深く理解することができました。味の違いだけでなく、料理の成り立ちや地域の特産品の影響を考えると、食を通じた文化の多様性を学ぶことができたと感じています。



男子メンバーと記念写真

台湾旅行を通して知った 自分の現在地

高知県立高知国際中学校 3年 横山 愛



色んなことを教えてくれた仲間に感謝！

人生初の海外旅行。初対面の7人の仲間と過ごす4泊5日の台湾の旅。中学生は2人だけ。内向的で人見知りの私は台湾に行く前、不安でいっぱいでした。しかし羽田空港に向かうバスの中で高校生のみなさんが「お互いをなんて呼ぶか決めよう！」と提案してくれて、そんな不安

は一気に解消しました。初日の夜はホテルの近くのコンビニで買った台湾のお菓子を持ち寄って女子会をして、すっかり打ち解け、翌日の夜からは男女8人全員で部屋に集まり、ゲームをしたり、お互いの学校の話や地元の話をして盛り上がりました。

それぞれ英語や台湾語が堪能だったり、政治や教育についての知識も豊富で、私は圧倒されるばかり。そんな私を放置することなく、「全然、ため口でいいよ」とか「聞きたいことがあったら、いつでも聞いてね」などの声をかけてくれて、同じ目線で色んなことを教えてくれて甘えさせてくれた高校生、大学生の皆さんに心から感謝です。



中世記念堂の前で8人の仲間と

もっと知りたい！学びたい！と感じた5日間

台湾に行く前は、日本より治安が悪く、台湾語ばかり、中国風の建物ばかりかと思っていたのですが、台北は日本と変わらず近代的なオフィスビルや商業ビルが立ち並んでいてマクドナルドやセブンイレブンもありました。日本との違いは、交通手段として「バイク」がたくさん走っていることで、車や自転車より「バイク」が多いように感じました。

食べ物には炒飯・エビマヨ・小籠包と



外交部の方々と質疑応答

中華がどれを食べてもおいしくて、特に初めて食べたキムチの小籠包は絶品でした。日本でも流行っている「タピオカ」のミルク

ティが訪問先で何度か出てきて、台湾では「タピオカ」を「コーヒー」やお茶の感覚で飲むものなのかな、と思いました。特に印象に残っているのは「総統府」と「国立台南大学附属高中」を訪れたことです。



国立台南大学附属高中の高校生と台湾のパン作り

総統府では、外交部も教育部も女性の方がリーダーで、女性の社会的地位が確立されているのを感じました。また、どちらの方も物腰が柔らかく同性として安心感を覚えました。

外交部では日本語

で対応していただいたのですが、教育部では英語と台湾語での会話だったため、なかなか内容が聞き取れず、自分の英語力が足りませんでした。一緒にいった仲間の中で英語や台湾語ができる大学生と高校生が主に質問や会話をしていたので、こんな貴重な機会をいただいているのに、知識不足と英語力不足のため、それに参加できない自分がかくかく、帰国したら必ずしもつと社会情勢や英語の勉強をしようと思っていました。

外交部では、台湾と中国との今後の関係や方針について考えを聞けたこと、教育部では、台湾は治安が良く、留学生もたくさんいるというお

話を聞いたことが興味深かったです。

「国立台南大学附属高中」では現地の高校生と台湾のパンを一緒に作りました。現地の高校生の一人が「あなたはバレエをやっているのですか？」と話しかけてくれて、10年以上続けているクラシックバレエや学校のK-POPダンスサークルの話題で打ち解けることができ、言葉や国が違っても「踊ること」という共通点で繋がるのができたことが嬉しかったです。

この研修旅行を通して、自分が「井の中の蛙」であることを痛感しました。そしてもっといろいろな世界を覗きたい。もっと知りたい。学びたい。という気持ちが溢れてきました。自分に何ができるのか、まだわかりませんが、自分の可能性を信じて日々精進したいと思います。

台湾で活躍した日本人についての ベストスポット

福島大学附属中学校 1年 長南 陽向



真ん中が私

ベストスポットⅠ：国立台湾博物館

《国立台湾博物館とは》

・日本統治時代の1908年に設置された、台湾で最も歴史のある博物館。

・第4代台湾総督の児玉源太郎と民政長官の後藤新平の銅像が展示されている。

《児玉源太郎・後藤新平について》

・児玉源太郎→インフラを整備し、台湾の経済を発展させた。また、台湾の治安改善に努めた。日本では、戊辰戦争、西南戦争、佐賀の乱などで功績をたて、日露戦争では、日本を勝利に導いた。

・後藤新平→満鉄のインフラ整備、衛生施設の拡充、大連などの都市建設をした。日本では、関東大震災の復興計画の立案や、東京市長、内務大臣などを務めるなどとして功績を残した。

《国立台湾博物館の私的見どころ》

・動植物の標本：台湾に生息しているまたはしていた動植物の標本が多く飾られている。中には1000年前に作られたものもある。日本では見れない動植物にも出会ったことができる。

・原住民関連の資料：台湾の原住民の人形や道具などが展示されて

いる。台湾の地図とともに原住民の情報が展示されているため、わかりやすい展示となっている。

・蒸気機関車：縦貫線（台湾の鉄道路線の中で最古＆最長の路線をかつて走っていたとされている蒸気機関車が展示されている。

《感想》

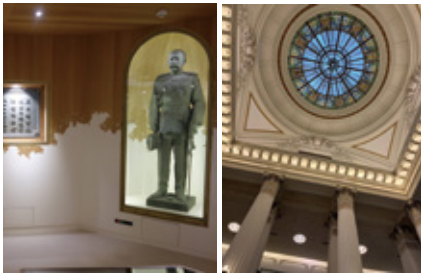
・国立台湾博物館は、日本との文化の違い、共通点などを視覚的に捉えることができた。

・台湾について詳しく知るにはここが最適だと思った。

・天井のステンドグラスや外見も素敵な博物館だった。

・お土産も多種多様でおすすめです。スポットだと思った。

・動植物の展示では、日本の動植物との違いを見つけることができた。



展示されている作品

天井のステンドグラス

ベストスポットⅡ：林百貨店

《林百貨店とは》

・台南市にあるレトロな百貨店。

・日本統治時代に建てられた鉄筋コンクリート造の6階建てビルで、当時の最先端技術が用いられている。

・林方一が創業させた、台湾初のエレベーターがついている。

・屋上には小さな祠と鳥居がある。

・戦後は廃業となっていたが、歴史的建築物を生かした「文化首都」づくりの環として再利用が決まり、2014年に再オープンした。

《林方一について》

・1932年に林百貨店の建設に着手した。過労により体調を崩し、林百貨店のオープン5日後に亡くなった。

《林百貨店の私的見どころ》

・祠と鳥居：開業しすぐに亡くなった林方一の供養と店の発展を願って設置されたと伝えられている。また、アメリカ軍の空襲により、穴が空いた外壁がそのまま残っている。

・エレベーター：台湾で最も古いレトロなエレベーターとなっている。最大5人まで乗ることができる。エレベーターの内装が西洋風で美しい作りである。

《感想》

・林方一の歴史について知ることができた。

・壊れた鳥居や穴が空いた外壁など、戦時中の様子を伺えるものが数多く残されていて、戦争の過酷さを知った。

・エレベーターは現在のエレベーターと変わらず運用していてすごいなと思った。

・日本統治時代の建築技術を知ることができた。西洋風な作りで綺麗だった。

・台湾の有名なものや特産品などがたくさん売られており、お土産をたくさん買つことができて良かった。



穴の空いた外壁

壊れた鳥居

2度目の『初めて』と進化 ～学びあふれる5日間

高槻高校 2年 山本 旭隼



台南・神農街の散策にて(真ん中が私)

「二回目」といって、夢見心地と責任感と

人生の転機となった、昨年の研修旅行への参加。それから二年が経ち、再び戻ってくることで、きました。昨年の思い出はまさに一生の宝物で、今年も当日まで夢見心地でいたのを覚えています。昨年特に心に残ったのは、外交部での外交官との議論でした。国際的に難しい立場の中で熱意と誇りを持って職務に当たる姿に感銘を受け、私自身「将来外交官に



林百貨の屋上から望む夕陽は絶景だった

なる」という夢を抱くきっかけになりました。ですから、今年も外交部を訪問してその方とお話してきた際は、嬉しさで一杯でした。また今回は、台湾の新たな側面を知ることができました。オランダ統治時代に建設された城である赤崁楼や、日本人によ



九份にて。台湾研修での皆との絆は一生もの

受けた痕跡が今も残されており、台湾がかつて日本であったこと、そして日本として戦う運命を辿ったことを

ひしひしと感じました。個人的な今年の目標は「徹底的に学びとること」でした。私は昨年の参加(初海外)を皮切りに、様々な国際イベントや海外研修に参加しました。成長した自分が再び台湾に行つて、見え方はどのように違うのだろうか。それを確かめたかったのです。結果主体的に臨んだ研修では、台湾の歴史や情勢など多くを学びました。また、台湾を含む世界の未来を担い、平和への舵取りをするのはまさに我々の世代。そして私自身であるとの強い自覚と使命感を抱くことができ、最高の糧ともなりました。

「豆腐乳」の観点から物事を見る

「豆腐乳」は、豆腐に麹をつけて発酵させたもので中国や台湾で食べられる食品です。それを私たち参加者が食べたのは三日目の夜、ホテルの一室でした。初めは美味、しかし咀嚼を重ねると苦味とも甘味ともつかぬ濃厚な感覚が一度に口内に広がり、なかなか飲み込ませてくれない。そんな未知を私たちは味わいました。しかし、瓶の中身が減るにつれて、苦味は薄まってきました。底に近い豆腐ほど、苦味は少ないようです。結果、私たちは無事に味わいきり栄養とすることができました。思えば

これは、全ての物事に言えることです。側から見たり少し体験するだけでと楽しめる。しかし咀嚼する、つまり本格的に取り組むとなると話は違って、様々な困難が苦味となって現れ、味わうことを強制してくる。そこで吐き出して



教育部の表敬訪問での議論後の一枚

逃げることもできる。けれども吐き出したところで苦味はもはや口に残ったままではないか。それならばいっそ踏ん張って飲み込んで、乗り越えてしまつた方が良く、そうして地道に乗り越えていくと、苦味は薄まっていく。やがて底が見える。真髄に到達だ。豆腐乳は、まさにチャレンジの縮図でした。訪



高校訪問ではパン作りを通じて交流を深めた

問した政府機関や学校での交流。うまくいかないことも当たり前だと思つて味わい、ひたむきに歩みを進めた先に明るい未来や成長があるのでしょう。これから夢に向かって走る上で大切なそのことを教えてくれたのは、まさにこの五日間でした。

国境を超えた ヒューマニズムを考える

慶應義塾大学 2年 小平 暖己



九份にて(一番左が私)

狭間に築かれた自由で平和な社会

5日間で訪れた多くの場所で、台湾の強い繋がりを感じた。戦前、ある日本人によつて台南に建てられた林百貨店は、戦中には砲撃の被害などを受けるもその後復元され、今や地域のランドマークとなっている。2014年の台湾映画は、日本統治時代に甲子園で準優勝を果たした嘉義農林学校野球部の実話を描き、感動を呼び起こした。これらの物語はい

の命が失われた暗い歴史があった。今回訪れた台湾博物館も、その犠牲者を追悼し事件を後世に伝える「二八和平公園」の中に位置していた。初日に訪問した中正紀念堂では、個人の行動が国家間の緊張に巻き込まれた一例として、人気グループTWICEのメンバーが出身地・台湾の旗を掲げたことが政治問題化した事件を展示・紹介していた。また、台北の町中の至るところに見られた防空避難施設の案内は、台湾が21世紀の両超大国の間で、地政学上のリスクに晒され続けていることを物語っている。では、平和で安全な世界を守るために、私たちはどうするべきなのか。偏見や不正をなくするための第歩は、現地へ踏み出し、その国の暮らしを目の当たりにし、実体験と共感を通じて理解することだ。そうすることで、国家やイデオロギーの裏で見えなくなってい



台南に向かう列車内にて

人の行動が国家間の緊張に巻き込まれた一例として、人気グループTWICEのメンバーが出身地・台湾の旗を掲げたことが政治問題化した事件を展示・紹介していた。また、台北の町中の至るところに見られた防空避難施設の案内は、台湾が21世紀の両超大国の間で、地政学上のリスクに晒され続けていることを物語っている。では、平和で安全な世界を守るために、私たちはどうするべきなのか。偏見や不正をなくするための第歩は、現地へ踏み出し、その国の暮らしを目の当たりにし、実体験と共感を通じて理解することだ。そうすることで、国家やイデオロギーの裏で見えなくなってい

た、国境・文化・言語を超えた人間の共通部分に光を当てることができ。グローバル化した世界において、私たちはそのアイデンティティを自らの手で形作らなければならない。人間という存在を探求し、それぞれが国際社会の一員たるを自覚して生きるこそが、21世紀を生きる私たちの責務であり、平和への基盤となるだろう。

総統府の西洋建築に、日台の将来を想う

もちろん、過去の植民地支配を巡る議論において経済開発や近代化の側面ばかりに注目するのは、安易な歴史修正主義にも繋がりがかねない危険な行爲だ。しかし、現在の日台は明らかに、近代の歴史から連続する経済・文化的つながりの中において、さらに密接な関係を築こうとしている。今回、日本が台湾の歴史にどのような影響を与えよう形作ってきたのかを現地で目撃できたことは、私自身にとって非常に興味深い機会であり、日台関係をより深く理解するための視座を与えてくれた。今後自分なりに、四泊五日では出会うことのできなかった台湾の新たな側面を追い求めてゆきたい。



飛行機から見た台北市街



林百貨店屋上の鳥居と夕日

は、現地へ踏み出し、その国の暮らしを目の当たりにし、実体験と共感を通じて理解することだ。そうすることで、国家やイデオロギーの裏で見えなくなってい



総統府庁舎、かつての台湾総督府



防空避難所の案内(台北市内)

台湾交響曲 ～歴史と文化が奏でる旅路～

早稲田実業学校高等部 3年 江島 未彩



九份で描いてもらった花文字「未彩」

多様性の中にあるアイデンティティ

研修2日目、私はある疑問を抱いた。現地ガイドの馬さんから、国家言語発展法について学んだ時だった。台湾では、多様な言語や文化が共存し、それぞれが尊重されている。その多様性の中で、「台湾人」としての統一的なアイデンティティは果たして確立できるのだろうか。多様性を重視することで、国家としての一体感が薄れてしまふリスクがあるのではないか。そんな問いが私の頭をよぎった。研修3日目、外交部を訪問した際、その考えは大きく覆された。「多様性こそが台湾のアイデンティティ。」この言葉が、まるで一本の光となつて私の迷いを照らした。異なる文化を持つ人々が共存し、互いを尊重し合うことで生まれる強い団結。その一体感は、決して統一ではない。共存と尊重によって築かれるものなのだ。私は強く実感した。さらに、それを象徴するかのように、台湾では女性の社会進出も進んでいる。2016年には台湾初の女性総



現地ガイド馬さんからの解説

統・蔡英文が誕生し、私

たちが訪れた外交部や教育部といった政府機関でも、多くの女性が重要な役職に就き、活躍されていた。その姿は、多様性を尊重し、力へと変えていく台湾の姿勢を如実に物語っていた。アイデンティティとは何か? という問い。台湾研修前は、二つの明確な答えがあると考えていた。しかし、現地での経験を通じて、アイデンティティとは単純に定

九份で出会った自然と人の温もり

九份に足を踏み入れた瞬間、私はまるで映画のワンシーンに迷い込んだかのような感覚に包まれた。幼いころに何度も観た「千と千尋の神隠し」を思い出す。眼下には、光と影が交差する幻想的な街並み。気付いた時には、九份の狭い路地で道に迷っ



九份の青く輝く海岸線

義でできるものではなく、多様な要素が絡み合いながら形成されるものだと気づいた。「自分たちは何者なのか?」と問い続ける姿勢こそが、台湾

の強さなのかもしれない。台湾の多様性を力に変える姿勢から、日本の私たちも学ぶべきことが多いのではないだろうか。

ていた。それを見た店主が、地図を見つめている私たちに、「どこへ行きたいの?」と声をかけてくれたのを今でも鮮明に覚えている。言葉が完全に通じなくても、優しい笑顔が、まるで魔法のように不安を取り除いてくれた。そして、この研修を共にした仲間たち。政府機関表敬訪問の前日、女子5人で電話ミーティングを行い、念入りに事前リサーチをしたり、4日目の夜には8人全員が集まって、地元のスーパードで購入した珍しい食料を食べたりと充実した5日間だった。ただ字だけではなく、



8人全員で過ごした高速鉄道での楽しいひと時

共に学び、感じ、成長することの価値を、台湾での時間が教えてくれた。この場をお借りして、研修中にお世話になった皆様に心から感謝を伝えたい。「多謝你!」



台湾外交部表敬訪問



作文部門

大賞

正解のない時代に挑む、 私なりの考え ～日台関係と私の役割～

広尾学園高校 2年 亀山 紗来

「日本人って、台湾を中国の領土とは思ってないんでしょう？あなたはと思うの？」

かさを幼いながらに感じた。幼稚園で唯一の日本人だった私にも、彼らはとても優しく、いつも「コミュニケーション」を取ろうとしてくれた。

が心に重くのしかかった。

2018年、10歳の私は父の転勤に伴って中国上海に引越した。初めて上海に足を踏み入れた私はその発展ぶりに驚いた。日本ではまだ現金が中心だったが、上海では誰もがスマホで支払う、漫画に出てくる未来都市のようだった。そんな見慣れない社会以上に私の心にグサツときたのが、周囲から投げられたこの質問だった。どう答えるべきか、私にはさっぱり分からなかった。あの時は、ただ曖昧な笑顔を浮かべてやり過ごさずしかなかった。

台湾は私にとって特別な場所だ。5歳で日本に戻り、私は横浜中華学院に入園し、小学校は東京中華学校に進学した。両親は日本人だが、幼少期を台湾で過ごした私にとって、台湾と日本の言葉や文化が混在する学校は、非常に心地よかった。そして、講堂には孫文先生の肖像画が飾られ、中華民国の国家を歌い、皆が「台湾は台湾だ、そう言っているから私もそう思ってきた。」

そんな私に、この質問に続けて当たり前のように「中国は一つだ」と言われ、ただただ聞くだけの自分に、10歳の私は言葉にできない無力感を覚えた。私は、「正解」というより自分なりに歴史を勉強した上での結論を持ち合わせていなかった。今思えば「正解」はないのかもしれないが、当時の私には、悔しさと無力感が

私は生まれてからの5年間を台湾・台北で過ごした。台北の文化、食べ物、人々の温かさは、私の心に深く刻まれた。幼い私を連れた母に、台湾人はとても親切に接してくれた。階段でベビーカーを運ぶのを手伝ってくれたり、電車に乗った瞬間に席を譲ってくれたり、台湾人の温

が当時の私には、悔しさと無力感が

その後の上海での4年間は、中国と台湾の関係を考える大きな転機となった。中国での無力感はいつしか「知りたい、学びたい」という情熱に変わっていった。そして、高校に入ってから真剣に歴史を学び、自分の考えを見つけないと思った。日本、台湾、中国で生活した私は、自国の中だけで議論をするのではなく、国を跨いだ交流をすることが重要だと考えるようになった。

そう思った思いから、2024年の夏、私は日本、中国、香港、台湾から参加者が集まる日中青年会議に参加した。会議では戦争や対立、平和構築、さらに政治・外交にまで話は広がった。特に、中国と香港・台湾との関係については議論が白熱した。対立ではなく理解と尊重を目的に、私たち青少年が未来に向けて何ができるかを議論した。

そんな中、忘れられないある事件

が起こった。4日目の夜、私たちはローカルのラーメン屋で晩御飯を食べていた。皆明るい雰囲気でお話していたが、香港人の一言によってその雰囲気は一変した。

「中国人は台湾で起きた228事件についてどう思うの？」

香港人の子は「非人道的な出来事だ」と断言した。「特に卑劣なのは医師、学者や政治家などの知識人を中心に殺したことだ」と言い放った。彼女がヒートアップする中、中国人の女の子は終始静かにラーメンをすすっていた。宿舎に戻る帰り道で、その中国人は私と台湾人にこうつぶやいた。

「ラーメン屋で私はとても居心地が悪かった。過去の出来事に対して言っていたけど、まるで私が責められているように感じた。」

すぐに台湾人が「あなたは何も悪くないよ。」と返した。過去の歴史に対して憎しみを持って何も生まれない。歴史は人を傷つける言い訳にはならない。そう思った。

しかし、歴史はただの過去ではない、同じ過ちを繰り返さないために「今を生きる私たち」へ残された教訓でもあると思う。私は、前に読んだ安倍晋三氏による戦後70年談話の中で、「あの戦争には何ら関わりがない、私たちの子や孫、そしてそ

の先の世代の子供たちに、謝罪を続ける宿命を負わせてはなりません。しかし、それでもなお、私たち日本人は、世代を超えて、過去の歴史に真正面から向き合わなければなりません。」という文章を思い出した。歴史を超えた私たちの世代が、現在の課題に対し、お互いの立場や背景を尊重しながら、議論を行い、未来志向で向き合う。そのような姿勢と行動が大切だと身を持って感じた。

私は、相手の目を見て、耳で聞いて、交流することが平和な未来を構築するための一歩だと思う。それは、私たち民間レベルであれ、政府トップであれ、すべてのレイヤーに当てはまる。私は、台湾も中国も知っている身として、中国語と英語の語学力も活かしながら、日台関係、そして東アジアの平和と発展に貢献できる方法を探していく。「次世代」である私たちが国境を超えて交流を深めることが、真の平和を実現するための鍵であると信じ、常に前を向いて行動に移していきたい。

【引用文献】

1) 安倍晋三、「内閣総理大臣談話」首相官邸、2015-08-14。
https://warpp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10992693/www.kantei.go.jp/j97_abe/discourse/20150814danwa.html,
(参照2025-01-09)



作文部門
優秀賞

台湾の心を知る 〜台湾深掘り旅〜

早稲田摂陵高校 2年 岩坂 麻侑

台湾旅行の楽しみについてネットで検索すると、レトロな街並み、歴史的建造物、博物館の宝物などの観光や都心でのグルメやショッピングの情報がかりだ。

しかし、わたしが台湾に行くならぜひ訪れたい場所がある。

立法院。

中華民国の立法院は日本の国会議事堂にあたるものだ。

そもそも日本の国会議事堂に行ってもない私がなぜ、と思われるだろう。

建物は日本統治時代の「台北州立台北第二高等女学校」の校舎なのだそうだが、私の興味はそこではない。この建物が、中華民国という国家が、いかに若々しく健全であることを世界に示した現場だからだ。

それはひまわり学生運動（中国語：太陽花學運）。

私がそれを知った経緯は簡単だ。私は高校の修学旅行で台湾に行った。事前勉強ということで姉があるテレビ番組を録画しておいてくれた。「台湾が揺れた24日間」ひまわり

学生運動の真実」と題されたその番組は、2014年に起こった学生たちによる立法院占拠とそれに関連した社会運動についてであった。

それは今からちょうど10年前の学生による「台湾立法院の占拠」。日本で言うところの国会議事堂を学生が占拠するというショッキングな事件。

しかしそれは2014年末に突然始まった韓国での戒厳令にはじまる混乱や数年前のアメリカで起きた議事堂襲撃事件、約50年前の日本の学生運動とは大きく異なっていた。

台湾の若者は真剣に国のことを考え、そして積極的に行動した。そして驚くべきことに、そこに暴力がなかったのだ。力に対して力で歯向かうのではなく、闇雲に暴走するのでもない。あくまでも理性的に、そして逃げ隠れせず真正面から大人と向かい合って自分の考えを主張する。

大人たちも力で押さえつけるのではなく、若者としっかりと目線を合わせて対峙し、その言葉に耳を傾けた。その部始終はインターネットを介して世界中に配信されたが、政府側が

その配信を制限することはなかった。

こうして世界中が見守る中で、相互の議論が重ねられ、やがて暴力なき反抗は静かに収束した。

なんと「理性」「なんとという節度！美しい街並みや楽しいグルメなどという、私の台湾への考え方は一変した。

その番組を見た後、私は予定通り修学旅行で台湾を訪れた。

友達と歩いた台湾の街並みはどこか懐かしく、それでいてエキゾチックで最高だった。みんなで食べたスイーツは、可愛い見た目を裏切らない美味しさだった。夜の繁華街はとても刺激的だったし、友人との夜通しのおしゃべりもやはり特別な思い出になった。そして台湾の人々に接し、そのやさしさを体感できた。

そして修学旅行で一番貴重な経験だったのは、現地の高校生との交流ができたことだ。

実際に台湾の若者と話をしていたことは、もちろん同年代の若者

同士、同じように日々を過ごしているわけだが、彼らの節度と理性、そして寛容さと強さ、そして自分の「国」というものを強く意識して生きているという点だ。

そしてもうひとつ、同じ島国でありながら地政学的にも歴史的にも日本とは大きく異なる台湾で生まれた彼らは、いやがおうでも「自国と隣国」「世界の中における台湾」というものを日々意識している。これは私たちが日本人と大きく違う点だと感じた。

日本人への気持ちについても考えさせられるものがあつた。感情的に「親日」「嫌日」という単純な二元論で語るのはない。自らが強くあることで自律的な節度を維持し、相手に対して寛容で理性的な態度で接すること、これが今の私たちが台湾から学ぶべき最大のポイントだと強く感じた。

わたしはいま、もう二度台湾を訪れたいと思っている。

それは先に述べたような楽しい思い出の振り返りだけが目的ではない。できるだけ早くもう一度、と強く思っている理由があるのだ。それはある新聞記事がきっかけだった。「中国に抵抗」「ヒマワリ学生運動」の記憶薄れる警戒心緩い台湾の若者、中国がターゲットに」と題された2024年4月の産経新聞の記事は、日本の危険性に警鐘を鳴らす内容ではあるが、その中で10年が経過して若者の間で

ひまわり学生運動が過去のものとなりつつあると書かれていたのだ。

2024年で10周年を迎えたひまわり学生運動の風化が本当だとしたら、それは悲劇だ。世界に誇るべき非暴力での公開討論の歴史が風化してはいけない。若者と大人が互いに敬意を払い、真正面に向かい合って議論していく、という10年前の「ひまわり学生運動」のスピリットが、風化しているとは思えない。

だからこそ、私がつ一度台湾を訪れるなら、今度こそ立法院を訪れたい。

国を憂いた若者とそんな若者を支えた人々の熱気、そしてそんな人々を力で排除せず、しっかりと向かい合った大人たちの息遣いが感じられると信じる。

そしてわたしなりに感じたことを日本に持ち帰ってみたいと思っている。

<参考資料・映像資料>

1)片倉 佳史 台北の歴史を歩く その13 中山南路を歩く 交流 854, p.14-23 2012.

2)NHK アナザーストーリーズ 運命の分岐点
台湾が揺れた24日間 ひまわり学生運動の真実
初回放送日:2024年10月28日
録画にて視聴

3)中国に抵抗「ヒマワリ学生運動」の記憶薄れる
警戒心緩い台湾の若者、中国がターゲットに
産経新聞 2024/4/21
<https://www.sankei.com/article/20240421-NBFSH73C5JNQLNGSX7N54V5NNGQ/>
2024年11月23日最終閲覧

作文部門
優秀賞

鉄道から学ぶ、

日本と台湾の絆とこれからの関係

和歌山県立桐蔭高校 1年 宮崎 大輔

鉄道が好きな私にとって、日本と台湾の鉄道は特別な魅力を持っています。日本には四季折々の風景を楽しめるローカル線や、新幹線のような高速鉄道があります。一方、台湾には観光列車や歴史ある鉄道路線が数多く存在します。両国の鉄道を通じて、日本と台湾の絆やこれからの関係について考える機会が増えました。

2000メートルを超える阿里山を登る山岳鉄道で、台湾固有の桜や霧のかかる森林の風景を楽しむことができます。このような日本が築いた鉄道インフラは、現在でも台湾の文化や経済に大きく貢献しています。

さらに、日本と台湾は鉄道技術の面でも交流が続いています。例えば、台湾高速鉄道（THSR）は日本の新幹線技術を採用しています。2007年に開業したこの路線は、台北から高雄までを約90分で結ぶ高速鉄道で、日本の東海道新幹線の技術を基に設計されました（日本新幹線システム）。この技術協力は、日本と台湾の強い信頼関係の表れと言えるでしょう。さらに、最近では台湾鉄道が日本から中古のキハ40系気動車を導入し、観光列車として改装するプロジェクトも行われています。このようなプロジェクトは、技術交流だけでなく観光振興にも貢献しています。

また、日本統治時代に建設された阿里山森林鉄道も台湾の重要な観光資源です。この鉄道は、標高

台湾の鉄道を知る中で、私は台湾の現状や社会についても学びました。例えば、台湾は地震が多い国です。そのため、鉄道の安全性に特に注意が払われています。2021年には、タロコ号脱線事故という痛ましい事故が起きました。この事故では、多くの人命が失われましたが、台湾全土で鉄道安全を見直すきっかけとなりました。一方で、このような出来事を通じて、台湾人の団結力や困難を乗り越える力を強く感じました。

また、台湾は多くの文化が入り混じっている社会です。台湾鉄道の駅名や案内板は、中国語、英語、日本語などで表記されており、外国人観光客にとっても分かりやすい配慮がされています。インターネットの動画投稿サイト等で調べたところ、駅員が外国語で親切に対応する姿が紹介されており、それが台湾人の温かさを象徴していると感じました。また、地元の人々が駅を訪れる観光客に手を差し伸べる姿も、多くの

記録や映像から垣間見ることができます。

これからの日本と台湾の関係を考えると、鉄道を通じた交流がさらなる架け橋になると思います。観光面では、両国の鉄道を活用した共同キャンペーン等を行うことで、互いの観光地の魅力をより多くのの人々に伝えることができるでしょう。例えば、日本の地方ローカル線と台湾の観光鉄道を組み合わせたツアーを企画することで、双方の地域経済を活性化させることが期待されます。また、鉄道博物館やイベントを通じて、鉄道文化を共有する場を設けることも重要だと考えます。これにより、鉄道愛好家のみならず、一般の人々にも、より両国の鉄道の魅力を知ってもらうことができると予想します。技術面では、次世代の鉄道開発における共同研究が考えられます。例えば、エネルギー効率の高い鉄道技術の開発や、AIを活用した鉄道運行システムの開発などが挙げられます。これにより、環境負荷を軽減しながら鉄道の利便性を向上させることができます。また、日本と台湾の鉄道事業者同士が定期的に会議を開き、災害対策や技術のノウハウを共有することも、両国の鉄道の安全性向上につながるでしょう。

さらに、若い世代の交流を促進

することも大切です。例えば、日本と台湾の学生が鉄道をテーマにした共同プロジェクトに取り組むことで、未来の架け橋となる人材を育成することができます。鉄道に関するコンテンツやワークショップなど、楽しみながら学べるイベントを開くことで互いの文化理解を深める機会を得ることができます。

最後に、鉄道は単なる移動手段ではなく、人々の思いや歴史をつなぐ存在だと改めて感じます。日本と台湾の鉄道には、両国の深い絆が刻まれており、その絆はこれからも続いていくことでしょう。鉄道が好きな私にとって、この関係をさらに深めてほしい思いがますます強まりました。未来の日本と台湾の関係が、鉄道のように強く、美しいものになることを心から願っています。



作文部門
優秀賞

自分の踊りを求めて

高知県立高知国際中学校 3年 横山 愛

私は4歳からクラシックバレエを習っている。

私にとって踊ることとは、呼吸と同じようなものだ。

学校ではダンスサークルでK-POPを踊って、放課後はバレエ教室でクラシックバレエやコンテンポラリーを踊る。

なにもない日は、自分の部屋に閉じこもって鏡とにらめっこしながら自分の踊りを磨いていく。

特にクラシックバレエには力を入れており、小学校時代はコンクールにも出場していた。「プロのバレリーナになりたい！」なんて夢見たときもあった。

しかし、年齢が上がるにつれ、段々と現実が見えてくる。この世の中には、私より生まれつきバレエ向きの体や骨格を持った人たちがたくさんいるということ。

それを知った私は「私がこれからもバレエを踊り続けていくことはお金と時間の無駄ではないか?」と思いい、バレエから離れようと考えたこともあった。

そんな時、両親が「バレエだけでなくジャズやコンテンポラリー、K-POPやよさこい踊りなど様々なジャンルの踊りをすぐに見様見真似で踊れる能力」「曲を聞いただけで踊りのイメージが湧く想像力」が私にはあるということを感じさせてくれた。

そこで私は、今年、新たなことに挑戦している。

それは、全国規模のコンクールで自分で自分に振りを付けて踊る、「自主制作した作品」でコンクールに挑戦してみることだ。

私はこの挑戦をする上で、様々

な国の舞踊について調べてみることにした。他の国の舞踊に触れることで、自分の中の踊りの動きや表現の選択肢が増えると考えたからだ。

調べる前までは「昔々にその国の人が踊ったものがそのまま伝統舞踊として残されている」と思っていた。でも本当は、自分の国以外の国の伝統舞踊の特徴や個性も参考にしながら伝統舞踊は進化や変化してきたのだと知った。

特に台湾の伝統舞踊は日本の伝統舞踊からたくさん影響を受けている。なぜなら、台湾は1895年から1945年まで日本統治時代があったからだ。

この時期、多くの台湾人にとって日本人による統治は抑圧的で、文化や言語を奪われ厳しい統治を受けるものであったこと、そして多くの台湾人の犠牲者がでたことも事実だ。

それと同時に、日本の文化や芸術

が台湾に影響を与えたこともあった。日本の舞踊や演劇(例えば、能や歌舞伎など)は台湾の伝統舞踊の発展に与えた影響を与えた。

この時期に台湾舞踊に日本的な要素が加わったり、台湾の舞踊団体が日本の舞踊スタイルを学ぶことがあった。

つまり、台湾と日本の伝統舞踊同士で化学反応を起こしていたのだ。

このことを知った私は、台湾の伝統舞踊に興味を持ち、どんな特徴をもった踊りなのか動画を探し、見てみた。

カラフルな衣装や独特なヘアースタイルと髪飾り、優雅な手の動き。その踊りは、日本舞踊や中国の踊り、クラシックバレエの動き、いろんな動きが融合されて独自の世界観が出来上がっていた。見たことがあるようにどこにも属していないそんな踊りだった。

私はぜひ台湾で実際の台湾舞踊を見たり体験してみたいと思った。その国の空気や雰囲気の中で見る舞踊はまた違った発見があるのではないだろうか?

また私と同世代の台湾の中学高

校生の人たちがどんなジャンルの踊りやエンターテインメントに関心があるのか?

台湾でクラシックバレエを習っている中高生はどのくらいいるのか?

台湾の中高生は台湾舞踊に関心があるのか?

そんな興味が次々に湧いてきた。

私は「踊ること」を通して台湾の方々と交流することで、自分自身の成長や自分の踊りや表現の幅を広げていくことに挑戦してみたい。

旅程表

ツアープラン：期間 令和7年3月25日～29日

3日目

6:30	起床
7:00	ホテルで朝食
8:00	ホテル 発 チェックアウト&MRTで台北駅へ
9:00	高鐵台北駅 着
9:21	高鐵台北駅 発 台湾新幹線で高鐵嘉義駅へ
10:48	高鐵嘉義駅 着
10:55	高鐵嘉義駅 発 バスで嘉義駅へ
11:38	台鉄嘉義駅 着 徒歩で移動
12:00	中央噴水池 着 昼食【噴水鶏肉飯】
12:30	中央噴水池 発 タクシーで移動(KANOロード)
12:40	嘉義公園 着 嘉義神社跡・グラウンド・KANO園区
14:00	嘉義公園 発 タクシーで移動
14:15	国立嘉義大学 着
15:00	国立嘉義大学 発 タクシーで移動
15:40	八田與一記念館 着
17:00	八田與一記念館 発 タクシーで移動
17:45	台鉄台南駅 着 徒歩で移動
18:00	ホテル 着 チェックイン
18:30	ホテル 発 タクシーで移動
18:40	林百貨店 着 夕食+ショッピング
20:40	林百貨店 発 タクシーで移動
21:10	花園夜市 着
22:10	花園夜市 発 タクシーで移動
22:30	ホテル 着
24:00	就寝

4日目

7:00	起床
7:30	ホテルで朝食
8:30	ホテル 発 チェックアウト&徒歩で移動
8:40	台鉄台南駅 着
8:50	台鉄台南駅 発 台鉄で移動
12:26	台鉄池上駅 着
12:30	台鉄池上駅 発 徒歩で移動
12:35	池上弁当文化物語館 着 昼食
13:35	池上弁当文化物語館 発 徒歩で移動
13:40	台鉄池上駅 着
13:52	台鉄池上駅 発 台鉄で移動
15:22	台鉄花蓮駅 着
15:30	台鉄花蓮駅 発 タクシーで移動
15:45	花蓮文化創意産業園区 着
16:45	花蓮文化創意産業園区 発 タクシーで移動
17:00	台鉄花蓮駅 着
17:24	台鉄花蓮駅 発 台鉄で移動
19:56	台鉄台北駅 着
20:00	台北駅 発 ホテルまでMRTおよび徒歩で移動
20:30	ホテル 着 チェックイン&近くで夕食
24:00	就寝

5日目

6:40	起床
7:10	ホテルで朝食
8:00	ホテル 発 チェックアウト&荷物預け&徒歩で移動
8:10	林森公園 着
8:40	林森公園 発 タクシーで移動
9:00	松山文創園区 着
9:50	松山文創園区 発 タクシーで移動
10:10	台湾文学基地 着
10:35	台湾文学基地 発 徒歩で移動
10:40	特有种商行 電影珈琲館 着 軽食
11:30	特有种商行 電影珈琲館 発 徒歩とMRTで中山駅へ
11:50	MRT中山駅 着 ショッピング&昼食&徒歩でホテルへ
13:50	ホテル 着 荷物受取り
14:10	ホテル 発 タクシーで台北(松山)空港へ
14:25	台北(松山)空港 着

16:25※ 台北(松山) 発

20:20※ 羽田空港 着

※航空機の便の時間は固定となります。

1日目

10:25※	羽田空港 発
13:25※	台北(松山) 着 タクシーで北投温泉のホテルへ 荷物を預けて出発。MRTで公館駅へ
15:30	国立台湾大学 着
16:50	国立台湾大学 発 MRTで北門駅へ
17:40	森高砂珈琲店 着
18:30	森高砂珈琲店 発 徒歩で移動
19:00	夕食レストラン 着
20:30	夕食レストラン 発 MRTで雙連駅へ
20:50	寧夏夜市 着
22:00	寧夏夜市 発 MRTで新北投駅へ
22:50	ホテル 着 チェックイン
24:00	就寝

2日目

7:00	起床
7:30	ホテルで朝食
8:50	ホテル出発 徒歩で移動
9:00	北投温泉博物館 着
10:00	北投温泉博物館 発 MRTで台大醫院駅へ
11:10	台湾総統府 着
12:10	台湾総統府 発 徒歩で移動
12:25	台北駅 着 フードコートで昼食
13:30	台北駅 発 徒歩で移動
13:45	国立台湾博物館(鉄道部パーク) 着
15:15	国立台湾博物館(鉄道部パーク) 発 徒歩で移動
15:30	国立台湾博物館 着
17:00	国立台湾博物館 発 MRTで台北101/世貿駅へ
17:30	台北101 着 展望台+ショッピング+夕食【鼎泰豊】
20:00	台北101 発 MRTで劍潭駅へ
20:40	士林夜市 着
21:40	士林夜市 発 MRTで新北投駅へ
22:15	ホテル 着
24:00	就寝

ツアー
プラン部門

大賞

台湾一周。台湾を愛した日本人と
日本統治時代の台湾を学ぶ旅。

福島大学附属中学校 1年 長南 陽向

私が台湾に興味を持ったきっかけは、「KANO」(1931海の向こうの甲子園〜)という映画に出合ったことです。

父の影響で、自動車で遠出をする際は、エンドレスでこの映画を観ていました。

この5日間のツアーのメインは、間違いなく「KANO」です。

「KANO」に出てくる近藤兵太郎監督や八田與一さんを知ったことで、日本統治時代の台湾発展に貢献した日本人を調べました。

台湾を愛し、台湾の発展に大きく貢献した日本人と日本統治時代の建物を巡るツアーを考えました。スケジュールの関係で、残念ながら省略したところもあります。

特に、東海岸で諦めたところ(瑞穂のコーヒーや吉野村、林田村など)が多いです。

あと2日あれば、すべて巡れたのかなと考えています。

チャンスがあれば、大学生になって台湾へ留学したいです。

アジアの国々の中には、日本が統治していた時代を、こころよく思っていない国もあります。

台湾は、日本が残した歴史や建物をそのままに残してくれていることが多いです。

親日の方も多いと聞いています。

日台友好の歴史を、これからもつないでいく一人になりたいと思います。

【参考にした資料】

- ・映画「KANO〜1931海の向こうの甲子園〜」。2014。(配給:ショウゲート)
- ・「古写真が語る 台湾日本統治時代の50年 1895〜1945」片倉佳史 著、祥伝社、2015。
- ・「台湾のトリセツ 地図で読み解く初耳秘話」執筆・撮影 片倉佳史、昭文社、2022。
- ・「ガイド本には載らない歴史さんぽ 台湾で日本を見つけ旅」おがたちえ 著、ぶんか社、2015。
- ・「東洋一のダムを作った日本人 八田與一」監修 許光輝、まんが みやぞえ郁雄、シナリオ 平良隆久、小学館、2011。
- ・「福島成蹊高等学校 2024年台湾研修旅行のしおり」

16:10	烏山頭ダム着
	八田技師記念室、銅像、放水口見学、散策
17:30	烏山頭ダム発(開園17:30に注意)
↓	車窓に穀倉地帯、ダムと水路の偉大さを感じつつ(専用バス)
18:30	晶英軒着、夕食(北京ダックなど)
	振り返りも行う
19:30	夕食終了、晶英軒発(専用バス)
19:40	台南ホテル着、荷物をおろし小休憩
20:10	台南ホテル発
↓	(専用バス)
20:30	花園夜市着、買い物開始
21:20	買い物終了、花園夜市発
↓	(専用バス)
21:40	台南ホテル着、各自部屋へ
23:00	就寝

4日目

6:30	起床、朝食(ホテル内ビュッフェ)
8:00	台南ホテル発
↓	(徒歩)
8:05	台南駅着
8:24	台南駅発
↓	(Fast Local Train 台東行)
9:02	高雄駅着
9:10	// 駅出発
↓	街並みを楽しみながら(徒歩)
9:30	美麗島駅(高雄MRT)着、「光之穹頂」見学
9:43	// 駅発
↓	(MRT橘線 西子湾行)
9:48	塩埕埔駅(高雄MRT)着
9:50	// 駅出発 (徒歩)
10:00	高雄流行音楽中心着、自由散策開始
	「大港倉」での買い物や、港湾都市・高雄を楽しむ
11:00	自由散策終了、専用バス乗車(専用バス)
11:10	川漁人家 烤鱼、川菜着、昼食(四川料理)
12:10	昼食終了、川漁人家 烤鱼、川菜発
↓	(専用バス)
12:50	橋頭糖廠(台湾糖業博物館)着
	見学
14:40	橋頭糖廠(台湾糖業博物館)発
↓	(専用バス)
16:00	多納集落着、集落ツアー開始
	現地ガイドの方のツアー、
	「魯凱亭文化咖啡館」では展示で学ぶ
18:30	集落ツアー終了、
	一度解散し各自接待家庭(=ホームステイ)先へ
19:00	接待家庭先着
19:30	外に再び出て夕食(バーベキュー)
	自然に囲まれ、交流を楽しむ
21:00	夕食終了、各自家庭に戻る
	団らん、交流など
23:00	就寝

5日目

6:00	起床
	各自家庭で朝食をいただく
7:30	多納高吊橋へ(徒歩)、村の皆さんと別れ
7:45	多納集落発
↓	(専用バス)
9:10	内惟芸術中心駅(高雄LRT)着
9:16	// 発
	車窓「トロのトンネル」を楽しむ(高雄LRT 籬仔内行)
9:25	愛河之心駅(高雄LRT)着 乗り換え(徒歩)
9:35	凹子底駅(MRT)発
↓	(MRT紅線 岡山車站行)
9:41	高鉄左営駅(MRT)着 乗り換え(徒歩)
9:55	左営駅(高鉄)発
↓	(台湾高速鉄路 南港行)
11:29	台北駅(高鉄)着
11:40	// 発 (専用バス)
12:00	四四南村着、見学
12:30	見学終了、四四南村発 (徒歩)
12:40	台北101着、展望台へ
13:30	台北101発
↓	(専用バス)
13:40	二空眷村小館(眷村料理)着、昼食
14:20	// 発 (専用バス)
14:25	台北松山空港着
14:25※	台北(松山)発
↓	
↓	
20:20※	羽田空港着
21:50	入国完了、羽田空港発
↓	(専用バス)
22:20	東京駅着、解散 ～5日間 お疲れ様でした～

※航空機の便の時間は固定となります。

1日目

7:40	東京駅集合、出発
↓	(専用バス)
8:20	羽田空港着
10:25※	羽田空港発
↓	
↓	
13:25※	台北(松山)着
15:00	入国完了、台北(松山空港)発
↓	(専用バス)
15:10	春水堂光南店着
	各自、腹具合に合わせてスイーツ・ドリンク等を楽しむ
15:50	春水堂光南店発
↓	(専用バス)
16:10	中正紀念堂着、見学開始
17:10	見学終了、自由広場にてホストファミリーと合流し、出発
↓	(ホストファミリーの車)
17:20	龍山寺着、参拝
18:20	龍山寺発、各自ホストファミリーの車で家に向かう
↓	(ホストファミリーの車)
19:00	外食・レストラン到着(帰路の途中)
	夕食
20:00	レストラン発
↓	(ホストファミリーの車)
20:20	ホームステイ先 着 団らん
22:30	就寝

2日目

6:30	起床
7:20	ホームステイ先 出発
↓	途中、屋台等で朝食をとる(公共交通機関利用)
8:30	台北駅前集合・出発
↓	車内から台北市内見学(専用バス)
9:00	總統府着
	見学(ガイドあり)
10:30	總統府発(専用バス)
↓	
10:40	延平高級中学着
	生徒と交流、学校紹介など
12:10	延平高級中学で昼食(生徒と一緒に)
12:50	延平高級中学発(専用バス)
↓	
13:30	九份老街着、頂上へ (徒歩)
14:00	頂上着、自由散策(買い物可)
15:00	自由散策終了、バスへ (徒歩)
15:30	バス乗車、九份老街発
↓	車窓に「正濱漁港・彩色街屋」(専用バス)
16:10	和平島公園着
	見学、散策
17:40	和平島公園発
↓	車窓に水平線に沈む夕陽(専用バス)
18:30	台北駅着、ホストファミリーと合流し移動
↓	(ホストファミリーの車)
18:40	龍都酒樓着、夕食(広東料理)と同時に
	日本語世代(友愛会)の方と交流、
	お話を聞く(ホストファミリー同席)
19:50	交流終了、お礼の後、龍都酒樓発
↓	(ホストファミリーの車)
20:20	各自ホームステイ先 着
	家族と一緒に飯糰(3日目の朝食)作り
22:30	就寝

3日目

6:30	起床
7:30	ホームステイ先 出発
	2日目に作った飯糰が朝食
8:40	台北駅着ホストファミリーと別れを惜しむ
	(ホストファミリーの車)
9:00	台北駅発(専用バス)
10:10	TSMC台積創新館着
	見学、体験
11:40	TSMC台積創新館発(専用バス)
12:00	菜園上海餐厅 着、昼食(上海料理)
13:00	昼食終了、菜園上海餐厅 発
↓	徒歩で街並みを見ながら(徒歩)
13:20	新竹駅着、駅の見学開始
13:35	見学終了、新竹駅発(専用バス)
14:05	新竹駅(高鉄)着
14:22	// 発
↓	(台湾高速鉄路 左営行)
15:13	嘉義駅(高鉄)着
15:25	// 発(専用バス)



ツアー
プラン部門
優秀賞

広く、深く学ぶ美麗島。
台湾マスターへの道を歩もう！

高槻高校 2年 山本 旭 隼





広く、深く学ぶ美麗島。

台湾マスターへの道を歩もう！

高槻高校 2年 山本 旭暉

このツアープランの参加者は、学生（中・高・大学生）を想定しています。理由としては、私自身高校2年生であり1人の学生として当事者目線で見られること、同級生や友人を通して学生層の意見が聞きやすくサンプルが多いことが挙げられます。また、参加者の人数は10人前後を想定し、台湾を訪れたことがある人もない人も、ハツとする新しい気づきを得られるような行程を目標とし、バリエーション豊かな体験ができるようにツアープランを作成しました。

ツアープラン作成の過程に言及します。募集開始以降、私はまず文献調査にあたり、台湾に関して基礎を固めました。幸い私の高校の図書館には「台湾コーナー」があり、台湾に関する本が豊富なので探すのに困りませんでした。そして本を読み込み、気になる点を網羅的に紙に記していきました。それが終わるとその中からツアープラン作成に活かせるような部分をマージングしてさらにまとめました。初めからツアープランに活かせるような部分だけを抜きだして表面的に理解するのではなく、基礎から徹底して学ぶことで、台湾の置かれた文脈を理解でき、そこから行程を生み

出すことで、より質の高いツアープランにしようとしたためです。また、インターネットで検索をかけて20の高校の台湾への研修旅行の記事を読み、行程を紙に写して共通点を把握・分析し、学びを目的とした研修旅行が重視している点を心得ました。さらに、私の学校で台湾研修に参加したGA・GSコースの生徒、私はGLコースなので台湾には行けませんでした。24名分アンケートを取って心に残った行程や苦労したことを取材しました。これは、別の台湾研修に参加した尾道北高校の生徒に、3名ではありますがご協力いただきました。加えて、学校の授業のオンライン交流でつながった台湾の高校生3名（国立斗六高級家事商業職業学校）にもおすすめの場所や魅力を問うアンケートを取り、情報源としました。ツアープラン作成に大変役立ち、この場でも再度謝意を表させていただきます。

次に、ツアープラン作成にあたり意識した点を挙げます。私は「行程が机上の空論にならないように努めました。体験の豊富さ、環境の快適さ、移動時間など、全てにおいてただ要素を無作為に並べただけにならないかを吟味しました。ただし、最大限に、私の夢と理想を詰めたプランであることも確かです。多くを体験してもらいたいと思い、現実に行き可能かどうかのせめぎ合いは私が最も苦労した点です。その中で助けを借りたのが、「流れ」でした。多く散らかった字の要素も、ある流れのもとに整列すれば全く苦にならない、ということ、私は経験から感じていたからです。とはいえ、惜しみつつ諦めざるを得ない行程もあり、その点はプラン作成中絶えず苦労して選別していききました。それゆえに、このツアープランは骨子のしっかりしたものに出来上がったと思っています。

時間の設定にもかなりこだわりました。九份老街での散策に関しては、混雑のピークが10時～14時、16時～18時^(※1)という情報を掴んだため、落ち着いた14時～15時^(※1)に買い物の時間を設けて、ほどよい賑やかさの元に落ち着いて買い物を楽しめるようにしました。また、基隆の和平島公園を訪れた後帰路に着く際には、日の入りの時間に合わせて専用バスを海沿いに走らせることで、水平線に沈む夕日に癒されるといったサプライズ要素を取り入れました。ちなみに時刻は、4月1日の完全な日没の予想時間が18時1分である^(※2)ことから逆算して設定したものです。

食は、中国四大料理を網羅し、屋台料理や眷村料理まで取り入れました。レストランの選定には、「円卓がある」「キヤパは十分」「予約対応されている」などいくつかの基準を設けました。食事こそ一番の交流の場であり、腹を割って話し、相手と分かち合うきっかけにもなると考えたからです。

ツアープランの作成を終えた今、私は長旅から帰ったような気持ちです。基礎から詳細に学ぶことに始まり、多くの情報を取り出し、吟味を重ね、形にする。苦しんだ時間もありましたが、魂を込めた分だけ、充実した時間でした。実のところ今は不測の事態が発生した際のプランにも着手し始めたのですが、そのような新たな趣味を与えてくれたこの学びと台湾に感謝し、その事を心から幸せに思います。

＜出典＞ ※1:「九份の平日の混雑状況」『台湾旅ガイド』2024/12/19 (<https://taiwantabiguide.com/jiufen-weekdays-crowded/>)
※2:「台湾日の出日の入り時間」『日の出日の入り時間検索』(<https://sunrise.maplogs.com/ja/taiwan.777.html>)

旅程表

ツアープラン：期間 令和7年3月25日～29日

15:30	四重溪温泉到着 ★自然に囲まれた温泉街を散策
16:30	ワークショップ③ 【テーマ】「温泉とヘルスケア」 ★温泉水の飲用文化を知る ★弱アルカリ性の温泉水の美肌効果など 温泉と健康の関係について学ぶ ★温泉が地域経済をどう活性化するかを考える
18:00	温泉水を使った料理体験会 ★四重溪温泉の温泉水を使って、 温泉卵やスープ、原住民料理などを調理する
19:00	夕食 ★料理体験会で作った料理を食べる
20:30	「清泉日式温泉館」にチェックイン ★四重溪でも特に歴史のある温泉宿
21:00	四重溪温泉 入浴

四重溪温泉

4日目

四重溪温泉

起床	宿で朝食
08:00	宿のチェックアウト
09:00	四重溪温泉 出発 →(バス乗車1時間半)→
10:30	高雄駅到着 →(台湾高速鉄道 2時間半)→
13:00	台北駅到着・駅周辺で昼食
14:00	台北駅出発 →(MRTで30分)→MRT新北投駅
14:30	北投温泉到着 北投温泉博物館 見学 ★日本統治時代に開発が進んだ 温泉街・北投温泉の歴史を調べる ★近年の北投温泉の発展について知る
16:00	ワークショップ④ 【テーマ】「日本と台湾の関わり」 ★日本・台湾の歴史的関わりを知る ★都市近郊型温泉地の振興策を学ぶ
18:00	温泉宿にチェックイン
18:30	夕食 ★名物の魯肉飯を食べる
19:30	北投温泉で入浴を楽しむ ★旅の思い出を振り返る
22:00	北投温泉の温泉宿に宿泊

北投温泉

5日目

北投温泉

08:00	起床・朝食
09:00	ワークショップ⑤ 【テーマ】「スタディツアーまとめ」 ★参加者でツアーの感想を共有 ★台湾の温泉地の特徴を整理する ★台湾の事例をもとに日本の温泉地を 活性化できそうな観光振興政策を考える ★台湾市内の大学の観光学部生にも参加してもらい、 日台の参加者でディスカッションや意見交換を行う
11:00	宿で昼食を食べる
12:00	宿をチェックアウト →(MRT 30分)→士林駅 →(バス乗車10分)
12:45	国立故宮博物院を見学 ★ツアーで得た知識を背景に 台湾の歴史を総体的に知る
14:45	国立故宮博物院 →(バス 5分)→
14:55	剣南路駅 →(MRT 15分)→
15:15	松山空港駅到着
15:30	松山空港に移動・帰国準備
16:25※	台北(松山)発
20:20※	羽田空港着

台北観光

1日目

台北観光

烏来温泉

2日目

烏来温泉

谷関温泉

3日目

谷関温泉

10:25※	羽田空港発
13:25※	台北(松山) 着 →(MRT乗車30分)→中正紀念堂駅
14:20	中正紀念堂 観光
14:50	自由広場 観光 →(MRT乗車15分)→
15:25	龍山寺 観光 →(MRT乗車5分)→
15:50	台北駅 →(バス乗車90分)→
17:20	烏来温泉到着 → 街を散策 ★山々に囲まれた町を楽しむ ★都会から離れた台湾の雰囲気を知る
18:00	烏来温泉の温泉宿で夕食 ★「烏来鶏肉飯」など地元名物を楽しむ
19:30	ワークショップ① 【テーマ】「原住民文化と観光の結びつき」 ★タイアル族原住民文化の担い手と交流 ★観光業と文化保存の両立方法を考える
22:00	烏来温泉 入浴 ★温泉に入り一日の疲れを癒す

起床	烏来温泉で朝食 ★烏来の食材を使った朝食 原住民文化体験交流会 ★タイアル族の伝統文化に親しむ ★伝統儀式や祭祀を見学する ★原住民文化と地域社会を考える
11:00	烏来温泉出発 →(バス乗車 1時間)→
12:00	台北駅 →(台湾高速鉄道 1時間)→
13:15	台中駅 →(バス乗車 1時間)→
14:30	谷関温泉 到着 谷関温泉博物館 見学 ★観光資源としての地熱について学ぶ ★谷関の歴史について学ぶ
16:30	トレッキング ★整備されたハイキングコースを歩く ★自然と温泉観光地の融合を観察する
17:00	ワークショップ② 【テーマ】「自然環境と観光開発」 ★自然にやさしい観光政策を考える ★エコ・ツーリズムを学ぶ ★温泉の農業灌漑への利用を学ぶ ★観光地の災害対策を考える
19:00	谷関温泉の宿 チェックイン
19:30	夕食
21:30	谷関温泉で入浴

起床	谷関温泉で朝食 ★地元地方の食材を使った朝食
09:00	谷関温泉出発 →(バス乗車 1時間)→
10:00	台中駅 →(台湾高速鉄道 2時間)→
12:00	台南駅到着
12:15	駅周辺で昼食 台南名物「度小月担仔麵」を味わう
13:30	台南駅出発 →(バス乗車 2時間)→



台湾温泉で学ぶ観光と文化
「地域と人を結ぶスタディツアー」

慶應義塾大学 2年 小平 暖己



※航空機の便の時間は固定となります。

台湾で温泉旅 × 観光政策を学ぶスタディツアー

3月下旬の温暖な春先の気候の中、花や木々に彩られた美しい自然を楽しみながら、
谷関温泉・烏来温泉・四重溪温泉・北投温泉の4つの人気温泉地に一泊ずつ滞在します。

それぞれの温泉地では交流会や文化体験会に参加し、

温泉の魅力や地域の特徴について理解を深めます。

また観光をテーマにしたワークショップを通して、

温泉を中心に地域を活性化するための観光政策を学んでいきます。

このツアーだけの特別な体験をたくさん盛り込み、文化と観光、地域創生について学びながら

心身ともにリフレッシュできる、とても魅力的な内容になっています！

温泉旅

- ★台北・台中・台南と、台湾の有名温泉街を巡る旅
- ★「温泉旅行に行く」という日台共通の文化を通じ台湾をもっと身近に！
- ★各温泉での様々な体験企画で地域文化の多様性に触れる

スタディツアー

- ★旅行をしながらも、学びと知識を得るツアー
- ★ワークショップを通してほかの参加者と意見を共有
- ★地元の人々との交流会

新たな発見・共感・つながり

目標

“温泉”を通じて台湾を楽しむ

目標

“観光”を通じて台湾を学ぶ

普通の人旅行では得られない「楽しい」「学び」を両立

日常の疲れを癒す「温泉旅行」は、日本でも台湾でも人気！台湾でも日本と同様、様々な場所でも温泉が湧き出ており、多様な特色を持った温泉地が存在します。このツアーでは台湾各地の温泉地を巡り、入浴を楽しみながら各地の文化に親しみます。

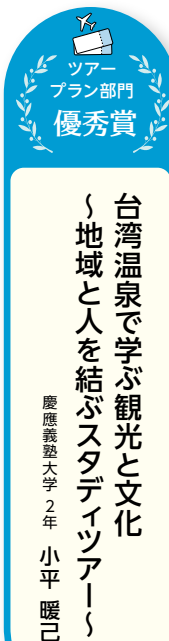
5日間を通して、文化体験会や地元の人々との交流会を開催したり、ハイキングで自然を楽しんだりします。また博物館を訪れて日台の密接な関係を歴史の中から解き明かしたり、普段は触れることの少ない台湾の原住民文化に親しんだり、このツアーでしか得られない貴重な体験を得ることができます。

またツアー中は毎日ワークショップを開催します。エコツーリズム、先住民文化と地域振興の関係など、さまざまなテーマに沿ったワーク

ショップで他の参加者と意見を交換し、観光について学んでいきます。環境、文化、地域社会など様々な分野に深く関係する観光政策を、実体験を通じて理解することができる貴重な「学び」の機会でもあるのです。

また4泊5日という行程の中でも、台湾の北から南までを巡り複数の都市を訪問します。各地で地元の名物料理を味わったり、ハイテクな高速鉄道で移動したりすることで、台湾の魅力をより多角的に知ることが出来ます。

日本に住む私たちにとって台湾旅行が身近になった現在、こうしたユニークで特別な体験は台湾旅に新たな刺激をもたらします。普段から日本でも温泉文化に慣れ親しみ、旅に新たな「学び」や「体験」を求める若者たちを惹きつける魅力的なツアー行程です！



旅程表

ツアープラン：期間 令和7年3月25日～29日

1日目

16:00	台湾外交部訪問（台南支部） 台湾の国際関係や戦争後の平和構築について学ぶ。 ※外交官の講話を収録し、台湾の視点を動画に追加。
18:00	民泊体験開始（台南市郊外の伝統的な家屋） 地元の市場を散策し、地元食材を購入。
19:20	夕食：台湾の家庭料理体験 民泊ファミリーとともに夕食の準備。 地元の食材を使った料理を学び、食文化を楽しむ。
20:00	夜の交流イベント 台湾の伝統的な遊びや文化的な話題を交えた リラックスした時間を楽しむ。民泊ファミリーから、 中国語や台湾語を教えてもらえる貴重な機会。 ※動画ナレーションとして、現地の言葉に挑戦。
21:30	自由時間 もし、体力に余裕があれば、台本、動画編集等。 ※3日目は、台湾外交部の方々から貴重なお話を伺うことができた 充実したプラン。ナレーションの追加、自分自身が感じたことがあ れば、記憶が新鮮なうちに台本に書き込んでおくことを忘れずに。

4日目

7:30	台南から台北へ移動 (高速鉄道利用、約2時間半) 快適な車内で動画素材の確認や写真の確認等
9:00	龍山寺訪問（台北市万華区） 台北最古の寺院で、台湾の伝統的な信仰と建築を学ぶ。 ※美しい装飾やランタンを撮影。
10:15	迪化街散策（台北市内） 台湾の歴史とモダンが共存する通り。 ※地元の人々との交流を動画に追加。
12:00	昼食：金峰魯肉飯（台北市内） 台湾名物「魯肉飯」「担仔麵」「青菜炒め」を堪能。
13:30	台湾伝統工芸体験（華山1914文化創意産業園区） 台湾の竹細工、藍染め、伝統的な扇子作りを体験。 ※完成した作品は動画の中で紹介。
15:00	九份へ移動（バス利用、1時間半）
16:30	九份展望台訪問 台湾の自然美と街のノスタルジックな景観を体感。
17:30	九份老街散策 九份老街の灯籠が点灯し、幻想的な雰囲気。 ※「千と千尋の神隠し」風の美しい街中素材。
19:00	夕食：小山風味海鮮羹（九份） 新鮮な台湾産の魚介料理を堪能。 地元素材を使った料理を味わい、旅の余韻を楽しむ。
21:00	ホテルチェックイン（九份） 移動が多い一日だったので、休憩をとる。
22:00	最終ミーティング（ホテル内orZoomにて） 映像素材の確認、編集方針の共有等。 【確認事項】 日本帰国後、実際に現地（台湾）で見たこと、 生で感じた現状を社会に発信することが目的である。 「伝える」ということを念頭におき、動画作成。
22:30	自由時間 5日目は、一緒に旅をしてきた仲間とゆっくり過ごす 時間はあまりないので、この時間を大切に。

5日目

7:00	九份から台北へ出発 (バス利用、1時間半～2時間)
9:00	台北駅から故宮博物館へ出発（MRT利用、30分）
9:30	台北故宮博物館見学 台湾の文化遺産を通じ、平和と繁栄について考える。 「翠玉白菜」「肉形石」等の台湾ならではの展示。
12:00	昼食（台北市内） 中華料理や台湾独自の小吃（軽食）を楽しむ。
13:00	ショッピングや自由時間（台北101など） 台北101は台湾の近代的な繁栄を象徴するランドマーク。 ショッピングモールや周辺で、台湾の特産品やお土産 を探しながら自由時間を過ごす。 ※もし時間に余裕があれば、誠品書店など、 台湾の文化や思想に触れられる場所の訪問も可能。
14:30	台北松山空港に向けて移動（MRT利用、20分程度） 台北101から最寄りのMRT「台北101/世貿駅」まで 歩き、そこから「松山空港駅」まで行く。
15:05	台北松山空港到着 空港到着後、セキュリティチェックや搭乗手続きを 行う。時間的には、かなり余裕あり。
16:25※	台北（松山）発
20:20※	羽田空港着 【日本帰国後の流れ】 ・動画完成 理解しやすいよう、字幕やナレーションを追加。 ・SNSに公開 多くの人々に平和のメッセージを届ける。 ・報告会 旅の成果の報告会を行い、平和について考える 機会を提供する。台湾での気づきを、地域社会へ 伝えていく。現地で感じたことは一生の宝物。

※航空機の便の時間は固定となります。

7:45	集合・オリエンテーション (羽田空港第3ターミナル時計塔Hカウンター付近) 旅の始まりは、絆を深めるチームビルディング。 その後、時間に余裕があれば、江戸小路でゆっくり。
10:25※	羽田空港発
13:25※	台北（松山）着
14:30	ホテルチェックイン（台北駅近く） 荷物を置いて、軽く休憩。
15:30	国立台湾博物館（台北二二八和平公園） 台湾における日本統治時代の歴史、戦後の混乱と 二二八事件について学びを深める。 公園内の「二二八和平記念碑」で平和の祈りを捧げる。 ※記念碑の映像、現地ガイドや解説を一部撮影。
17:00	中正記念堂 戦争の記憶と台湾の歴史的転換点を象徴する場所。 ※天井の「蔣介石記念堂」を撮影。台湾近代史との 関係を説明するナレーション等を動画編集時に追加。
18:30	夕食：台湾の地元料理を楽しむ 近くのローカルレストランで、伝統的な台湾料理 (ルーローハンや小籠包など)を堪能。 ※地元の人々との交流を動画に収めたい。
20:00	夜市散策（寧夏夜市） 戦後復興期の台湾の文化や生活に触れる。活気ある 台湾の人々のエネルギーを感じる。 屋台で軽食を購入するなど、皆で台湾を楽しむ。 ※平和を考える旅と観光が融合したドキュメンタリー 動画作りの素材として追加。
22:00	ホテル帰着 ※撮影した映像を軽く確認、記録整理を行う。

2日目

8:00	ホテル発、台中へ移動 (高速鉄道利用、約1時間) 高速鉄道乗り放題パスを買うのがおすすめ。
9:30	霧峰林家花園（台中）見学 日本統治時代に建てられた台湾名門林家の歴史と建築。 ※現地ガイドの解説を聞き、映像を撮影。 動画に、台湾の伝統演劇、音楽についての解説を追加。
11:30	昼食（台中市内） ローカルレストランで台中の名物料理を楽しむ。
13:00	高雄へ移動（高速鉄道利用、約1時間半）
15:00	高雄旗津地区（旗津灯台と砲台）見学 台湾海峡を見渡せる戦略的要地。 太平洋戦争時の防衛拠点・その後の平和利用を学ぶ。 ※海岸の映像を撮影。動画の素材として用いる。
17:30	夕食（六合夜市） 高雄の名物夜市で自由に食事。 ※現地の人々のインタビュー動画なども素材として 撮っておきたい。
19:00	ホテルチェックイン（高雄）
19:30	動画制作に関する打ち合わせ（ホテル内） 【決めるべきこと】 ・動画のテーマやタイトル（平和へのメッセージ） ・動画に追加するナレーション台本の流れの決定 ①オープニング（旅の目的やテーマの紹介） ②各日の主要ポイント（訪問、体験、インタビュー） ③エンディング（台湾での学びを総括） ・動画の長さ（ダイジェスト版と完成版） ・編集作業の大まかなタイムライン （日本帰国後、誰がどの場面を編集するのか等） ・各担当者のタスクと締め切りの明確化 ・公開プラットフォーム、配信方法の決定
21:00	自由時間 移動が多い一日だったので、休みをしっかりとる。 もし、体力に余裕があれば、台本、動画編集等。

3日目

8:30	ホテル発、台南へ移動（車で1時間）
9:30	赤崁楼（台南）見学 オランダ統治時代の建物。 戦争の影響を受けながらも残された文化遺産を学ぶ。
11:00	台南孔子廟見学 台湾における儒教文化と教育の中心地。 ※戦争中の教育の変遷とその影響についての説明を動画に追加。
12:30	昼食（台南市内） 台南名物の担仔麵やエビ巻きを味わう。
14:00	防空壕訪問（安平古堡近辺） 太平洋戦争中の防空壕跡。 戦時下の台湾の暮らしや防衛策について知る。 ※現地ガイドの解説を記録。

ツアー
プラン部門
優秀賞80年の時を超えて
平和の足跡を『皆で』たどる台湾の旅

早稲田実業学校高等部3年 江島 未彩





80年の時を超えて
『平和の足跡を『皆で』たどる台湾の旅』

早稲田実業学校高等部3年 江島 未彩

「平和」とは何でしょうか？

私たちは台湾という特別な場所を訪れ、平和の大切さを再確認する旅に出かけます。台湾は、過去の戦争の記憶と、現在の緊張を抱えながらも、未来に向けた平和の道を模索し続けています。この5日間の旅では、台湾の歴史と文化、そして自然の美しさを通じて、平和の重要性を学び、それを『皆で』広めることが目的です。では、『皆で』とはいったい誰を指しているのでしょうか。このツアーに参加した仲間だけでしょうか。いえ、違います。私は、この旅のタイトルにあえて『皆で』という言葉を入れました。短い言葉ではありますが、私のこの台湾5日間ツアーにかけた想いはすべてここにあるといつても過言ではありません。私は、この台湾での学びを、参加者だけでなく、SNSや動画を通じて広く発信することに力を入れたと考えており、タイトルの『皆で』は、参加者だけでなく、世界中の人々を意味しています。つまり、この旅の参加者は、この平和の尊さを多くの人々に広める役割を担っているというわけです。

私は発信の重要性を強く感じています。

す。それは、外務省後援第5回子ども世界平和サミットで「平和に対するイニシアティブ」をスピーチさせていただいた経験からです。衆議院会館で行われたサミット当日の様子は、YouTubeでも公開されており、実際にその動画を見た方々から反応のコメントをいただくことが多くありました。自分の意見や想いを伝えることで、他者に影響を与え、共感を呼ぶ。それは単なる言葉のやり取りを超え、人々の心を動かし、行動を促す力を持っています。だからこそ、台湾ツアーを通じて得られる学びを広く発信し、平和の大切さを共有することを目的としたツアーをプランしました。『皆で』それぞれが持つ想い、伝えてみませんか？

2025年、太平洋戦争終結から80年という節目の年を迎えようとしている今、このツアーでは台湾という「戦争と平和」「歴史と未来」が交錯する場所を巡り、過去から学び、未来を考える旅へ。台湾では、歴史的な背景だけでなく、現在も緊迫した状況が続いています。最新のニュースでは、大規模な避難訓練が実施されるなど、地元の人々が「戦争への恐怖

を感じる」と語る姿が報じられています。

こうした現状を目の当たりにすることで、平和の尊さを改めて考えるきっかけとなるでしょう。地元の方々にインタビュできる機会も数多く旅の中に入れています。また、台湾外交部の訪問では、台湾の外交関係や戦後の再構築についての重要な知見を得ることが出来ます。この訪問は、単に戦争の記憶を振り返るだけでなく、台湾がどのように過去の困難を乗り越え、現在の国際社会における立場を築いてきたのかを理解する貴重な機会となります。戦後、台湾は内外のさまざまな課題に直面しましたが、それ乗り越える過程で、平和を維持しながら地域の安定に寄与するための外交戦略を展開してきました。特に、台湾は太平洋戦争終結後に中華民国政府が統治することになり、中国本土との対立や国際的な孤立といった試練に直面しました。そのような状況下で、台湾は経済的文化的な力を強化することで国際社会との連携を模索してきました。訪問時には、台湾外交官の方々から、戦後の平和構築に向けた具体的な取り組みや、地域の安定

を維持するための政策について直接お話を伺うことができます。台湾が歩んできた道を知り、それを動画を通じて広く共有することで平和のメッセージをさらに深い形で発信することができるでしょう。さらには、防空壕を訪れた際の緊張感、台湾の現状を伝える貴重な素材となります。戦争の悲惨さや平和の重要性を、視覚的にも感覚的にも理解できる内容が多く含まれる旅です。このツアーは、戦争の記憶と平和の未来を結びつける架け橋となることを願ってプランしました。特に、台湾が過去の悲劇をどう乗り越え、未来を築こうとしているのかを知ることが、私たち自身が「平和とは何か」を問い直すきっかけとなるはずです。この旅を通じて、単に参加者が学ぶだけでなく、その学びを広く発信することで、平和の足跡を『皆で』たどることが出来ます。このツアーが多くの人々にとって、歴史を振り返り、平和を考える大切な機会となることを願っています。

この台湾の旅で、あなたの平和のメッセージを広め、世界に影響を与える発信者となりましょう。

宣伝・PR、メディア掲載報告

今回実施された宣伝・PRおよびメディア掲載事例の抜粋を紹介します。

日台文化交流 青少年スカラシップ 作品募集

産経新聞社は、将来の日台友好に貢献する人材を育てることを目的に「第21回日台文化交流 青少年スカラシップ」(協賛・J.R.東海ほか)を実施し、作文と台湾ツアーのオリジナルプランを募集します。日本の学生が対象で、審査委員長の拓殖大学顧問、渡辺利夫氏らが選考にあたります。締め切りは令和7年1月10日。作文のテーマは「台湾に関すること」。日本語で2000字以内でご応募ください。ツアープラン部門は「台湾の魅力伝える4泊5日ツアー」を考え、指定のフォーマットにご記入ください。各部門大賞・優秀賞の受賞者は、台湾研修旅行(3月下旬予定)に招待します。

詳細は2次元コードから。問い合わせは、日台スカラシップ事務局(03・3275・8675)へ。平日午前10時～午後6時、電子メール scholarship@sankei.co.jp



産経新聞(全国版) 2024年11月23日付

SANKEI Media Labo @Sankei_SalesAdv

「第21回日台文化交流スカラシップ」
(主催：産経新聞社) 作品募集開始！

学生を対象に、台湾をテーマとした「作文」と「台湾の魅力伝える4泊5日のツアープラン」を募集します。

受賞者には台湾研修旅行をプレゼント！
歴史と今を学び、日台交流を深めるチャンス！
adv.sankei.com/scholarship/

#日台文化交流 #スカラシップ #台湾旅行 #PR



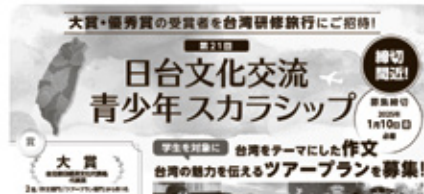
産経メディアラボ(X投稿) 2024年11月25日付

SANKEI Media Labo @Sankei_SalesAdv

「第21回日台文化交流スカラシップ」
(主催：産経新聞社) 作品募集締切間近！！
エントリーは1/10(金)まで！

学生を対象に、台湾をテーマとした「作文」と、「台湾の魅力伝える4泊5日のツアープラン」を募集中。

受賞者は台湾研修旅行にご招待！
adv.sankei.com/scholarship/
#日台文化交流 #スカラシップ #台湾旅行 #産経新聞



産経メディアラボ(X投稿) 2024年12月26日付

SANKEI Media Labo @Sankei_SalesAdv

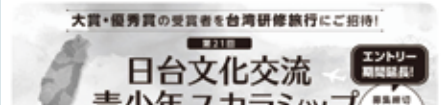
エントリー期間延長！
1/13(月・祝)必着！

「第21回日台文化交流スカラシップ」
(主催：産経新聞社) では学生を対象に、台湾をテーマとした「作文」と「台湾の魅力伝える4泊5日のツアープラン」を募集中です。

受賞者は台湾研修旅行にご招待！
学生のみなさんからの応募をお待ちしています！

エントリーは公式サイトから
adv.sankei.com/scholarship/

#日台文化交流 #スカラシップ #台湾旅行



産経メディアラボ(X投稿) 2025年1月8日付



作品募集パンフレット

大賞・優秀賞の受賞者を台湾研修旅行にご招待!

第21回

日台文化交流 青少年スカラシップ

募集締切
2025年
1月10日
必着

賞

大賞
台北駐日経済文化代表処
代表賞
2名 [作文部門] [ツアープラン部門] から各1名
表彰状、台湾研修旅行ご招待

優秀賞
6名 [作文部門] [ツアープラン部門] から各3名
表彰状、台湾研修旅行ご招待

奨励賞
12名 [作文部門] [ツアープラン部門] から各6名
表彰状、オーペア2wayプランケット*
Bluetoothスピーカー*

*台北駐日経済文化代表処および台湾観光庁よりご提供。
賞品内容は変更になる可能性があります。

学生を対象に 台湾をテーマにした**作文**
台湾の魅力を伝える**ツアープラン**を募集!

日本と台湾の新時代を拓く

主催: 産経新聞社 共催: 台北駐日経済文化代表処
 協賛: JFR東海 MITSUI & CO. EVA AIR 台湾新聞社
 協力: 外交部 教育部 台湾日本関係協会 TAIWAN 台湾観光庁
 後援: 日本台湾交流協会 自由時報

お問い合わせ 産経新聞東京本社 メディアビジネス局内 [日台スカラシップ]事務局 〒100-8079 東京都千代田区大塚1-7-2
 TEL 03-3275-8675 (土日祝日を除く 10:00-18:00) FAX 03-3275-8932 E-mail: scholarship@sankei.co.jp
 詳細およびエントリーシートは公式サイトへ <https://adv.sankei.com/scholarship/>

産経新聞 作品募集広告(半5段)

日台スカラシップ 大賞に亀山さん、長南さん

日本と台湾の若者による文化交流の促進を目指す「第21回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J.R.東海、三井物産、エバー航空、台湾新聞社)の受賞者が決まった。作文部門には542点の応募があり、大賞には亀山紗来さん(広島学園高2年)と長南陽向さん(福島大付属中1年)が選ばれた。新設されたツアープラン部門には109点の応募があり、大賞は長南陽向さん(福島大付属中1年)の「台湾一週。台湾を愛した日本人と日本統治時代の台湾を学ぶ旅。」が受賞した。各部門で大賞と優秀賞を受賞した8人は3月下旬の台湾研修旅行に招待される。

優秀賞の受賞者は次の通り。(敬称略)

【作文部門】岩坂麻術(早稲田大学2年)▽宮崎大輔(和歌山県立高知国中3年)▽横山愛(高知県立高知国中3年)

【ツアープラン部門】小平優己(慶応大2年)▽山本雄平(高槻高2年)▽江島未彩(早稲田実業学校高部3年)

産経新聞(全国版) 2025年3月7日付

大賞に亀山紗来さん、長南陽向さん 第21回日台文化交流 青少年スカラシップ

2025/3/6 19:37

日台文化交流の促進を目指す「第21回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J.R.東海、三井物産、エバー航空、台湾新聞社)の受賞者が決まった。

作文部門には542点の応募があり、大賞には亀山紗来(ささ)さん(広島学園高2年)の「正統のない時代に挑む、私なりの考え〜日台関係と私の役割〜」が選ばれた。

新設されたツアープラン部門には109点の応募があり、大賞は長南陽向(ひなた)さん(福島大付属中1年)の「台湾一週。台湾を愛した日本人と日本統治時代の台湾を学ぶ旅。」が受賞した。各部門で大賞と優秀賞を受賞した8人は3月下旬の台湾研修旅行に招待される。

優秀賞の受賞者は次の通り。(敬称略)

【作文部門】岩坂麻術(早稲田大学2年)▽宮崎大輔(和歌山県立高知国中3年)▽横山愛(高知県立高知国中3年)

【ツアープラン部門】小平優己(慶応大2年)▽山本雄平(高槻高2年)▽江島未彩(早稲田実業学校高部3年)

産経ニュース 2025年3月6日付

台湾の教育・外交部 学生8人が表敬訪問

日台スカラシップ

【台北・西見由章】日本と台湾の若い世代の相互交流促進を目的とした「第21回日台文化交流

青少年スカラシップ

(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J.R.東海、三井物産、エバー航空、台湾新聞社)を主催し、台湾研修旅行に参加した学生8人は24日、台北市にある台湾の教育部(教育省)と外交部(外務省)を表敬訪問した。

教育部長・周育榮(周部長)は「貴校が教育・文化・経済を通じて台湾の教育に貢献していることを高く評価し、今後も相互に協力し、発展していくことを期待しています」とあいさつ。大蔵・関西万博への台湾での関心度について聞かれた外交部日本総領事の李碧娥(李総領)は「立法委員(国会議員)をはじめ、万博に行く計画を立てている人は多いと聞きました。2回目の参加という大阪・高槻高校2年の山本雄平さんは「昨年、外交部の方と話をし、感動を受け、将来の夢が外交官になった」と話した。

産経新聞(全国版) 2025年3月25日付

日台スカラシップの学生ら、台湾の教育、外交部を訪問

2025/3/24 18:38

日台文化交流の促進を目指す「第21回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・J.R.東海、三井物産、エバー航空、台湾新聞社)を主催し、台湾研修旅行に参加した学生8人は24日、台北市にある台湾の教育部(教育省)と外交部(外務省)を表敬訪問した。

教育部長・周育榮(周部長)は「貴校が教育・文化・経済を通じて台湾の教育に貢献していることを高く評価し、今後も相互に協力し、発展していくことを期待しています」とあいさつ。大蔵・関西万博への台湾での関心度について聞かれた外交部日本総領事の李碧娥(李総領)は「立法委員(国会議員)をはじめ、万博に行く計画を立てている人は多いと聞きました。2回目の参加という大阪・高槻高校2年の山本雄平さんは「昨年、外交部の方と話をし、感動を受け、将来の夢が外交官になった」と話した。

産経ニュース 2025年3月24日付

企画・制作/産経新聞社メディアビジネス局
令和7年(2025年)3月22日 土曜日 13頁

日本と台湾の新時代を拓く

日台文化交流 青少年スカラシップ

第21回

日本と台湾の青少年による文化交流の促進を目指す「第21回日台文化交流 青少年スカラシップ」(主催・産経新聞社、共催・台北駐日経済文化代表処、協賛・JR東海、三井物産、エーバー航空、台湾新聞社)が開催された。今回は作文部門に加え、ツアープラン部門を新設し、独自の作文と4日5日のツアープランを募集。作文部門に542名、ツアープラン部門に109名、合わせて651名の応募があった。

作文部門では、龍山紗来さん(東京・広尾学園高校2年)の「正解のない時代に挑む、私の考え」が最優秀賞に選ばれた。

今回の考え「日台関係と私の役割」は、ツアープラン部門では龍山紗来さん(龍山・龍山大学附属中学校1年)の「台湾一隅、台湾を愛した日本人と日本統治時代の台湾を学ぶ旅」が大賞に輝いた。今年度も台湾への研修旅行には各部門の大賞・優秀賞の計8名の学生が参加する。

本日3月22日に日本を代表、現地学生との交流や政府機関への訪問を実施し、日台の交流を深める。また、ツアープラン部門大賞作品の一部を実際の研修旅行で訪問する。

旅程表 ツアープラン: 期間 令和7年3月25日~29日

3日目	1日目
7:00 出発	13:00 台北・陽明山公園
8:00 ホテルで朝食	14:00 陽明山公園を散策する
9:00 ホテル 見学 チョップアップホテル見学	15:00 陽明山公園を散策する
10:00 陽明山公園 見学	16:00 陽明山公園を散策する
11:00 陽明山公園 見学	17:00 陽明山公園を散策する
12:00 陽明山公園 見学	18:00 陽明山公園を散策する
13:00 陽明山公園 見学	19:00 陽明山公園を散策する
14:00 陽明山公園 見学	20:00 陽明山公園を散策する
15:00 陽明山公園 見学	21:00 陽明山公園を散策する
16:00 陽明山公園 見学	22:00 陽明山公園を散策する
17:00 陽明山公園 見学	23:00 陽明山公園を散策する
18:00 陽明山公園 見学	24:00 陽明山公園を散策する
19:00 陽明山公園 見学	25:00 陽明山公園を散策する
20:00 陽明山公園 見学	26:00 陽明山公園を散策する
21:00 陽明山公園 見学	27:00 陽明山公園を散策する
22:00 陽明山公園 見学	28:00 陽明山公園を散策する
23:00 陽明山公園 見学	29:00 陽明山公園を散策する
24:00 陽明山公園 見学	30:00 陽明山公園を散策する

作文部門 大賞

正解のない時代に挑む、私の考え

龍山紗来

龍山大学附属中学校 1年

ツアープラン部門 大賞

台湾一周、台湾を愛した日本人と日本統治時代の台湾を学ぶ旅

龍山紗来

龍山大学附属中学校 1年

作文部門 優秀賞

山本 旭希

小川 優己

江島 未彩

ツアープラン部門 優秀賞

山本 旭希

小川 優己

江島 未彩

作文部門 優秀賞

山本 旭希

小川 優己

江島 未彩

主催: 産経新聞社

共催: 台北駐日経済文化代表処

協賛: JR東海

協力: 外交部 教育部 台湾日本関係協会

後援: MITSUBISHI CO. EVA AIR

自由時報

未来を創る 「人を残す人生こそが『上』」

東京国際大学 国際関係学部教授・元産経新聞台北支局長 河崎 眞澄

産経新聞社主催の「日台文化交流 青少年スカラシップ」が第21回を迎え、大賞や優秀賞に選ばれた8人がこの3月、台湾研修の貴重な機会を得られたことに、改めて感動を覚えています。このプロジェクトが始まった当初、私は産経新聞台北支局長として赴任しており、研修生の現地での受け入れなど、さまざまなお手伝いをしながら、数多くの中高生や大学生が台湾での体験に目を輝かせる姿を見てきました。

初めての海外渡航で台湾を知り、日本と国際社会の関係に目覚めて、海外留学を実現した人。海外で働くことを決意してあらゆる努力を積み重ねた人。教師となつて子供たちに日本と世界の結びつきの大切さを伝えている人…。「台湾での経験」が青少年の人生に光を与え、「人」を育ててきたこと

は、疑う余地がありません。

その1人に橋本幹彦さんという方がいます。昨年10月の衆院選で国民党から出馬し、初当選されました。16年前に中学生だった橋本さん。作文部門で優秀賞となり、台湾研修にも参加されました。私自身は当時、上海支局長に転任しており、直接お会いすることはありませんでしたが、研修担当の同僚から、橋本さんが台湾で「将来は外交官になりたい」と熱く語っていた、と聞き及んでいました。

橋本さんは、台湾研修の機会にお会いした李登輝元総統（2020年7月に逝去）から「誠実自然」との考え方を学び、自分の生き方に浸潤している、とご自身のホームページに書いています。外交官ならぬ衆議院議員の1人として、日本を、台湾を、そして世界を、この

先どう導いていくのか、見守っていきたいと思います。

今回、作文部門で大賞に輝いた広尾学園高校の亀山紗来さんは、「過去の歴史に対して憎しみを持つても何も生まれない。歴史は人を傷つける言い訳にはならない」と綴りました。東京中華学校でも学んだ経験のある亀山さんの感覚は、明らかに「未来」に向けられています。「次世代」を担う若者を育てずして、未来などありません。

とりわけ民主主義の価値観を共有する日台の青少年が学びあふことは、東アジアの安定と繁栄に欠かせないと確信しています。李登輝元総統も深く尊敬していた後藤新平いわく、「人を残す人生こそが『上』」です。その役割を担う「日台文化交流 青少年スカラシップ」が未永く続くことを、強く願っています。

日台文化交流 青少年スカラシップの 審査を終えて

武蔵野大学客員教授・台湾在住作家 片倉 佳史

今回の審査を振り返ってみたいと思います。私は台湾に暮らしており、旅行会社や観光業者との接触も多いのですが、皆さんが手がけたツアープランはどれも新鮮な切り口で、内容もよく練られていたと思います。皆さんは足しげく台湾に通っているわけではなく、台湾に暮らしているわけでもないのですが、そういった皆さんだからこそ見える視点は新鮮で、それを台湾をまだ知らない仲間や友人に伝えたいという意気込みもしっかりと伝わってきました。

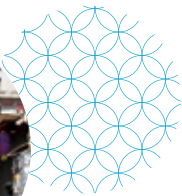
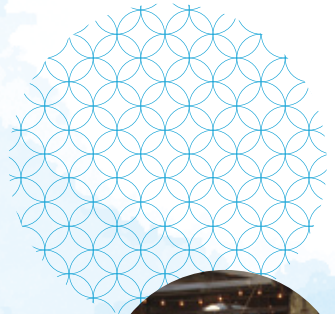
今回の企画は外国という新しい世界の扉を開くきっかけになったと思います。周知のように、台湾は日本との関わりが深く、それは歴史においても、現在においても、そして未来においても当てはまります。そういった日台関係から見える台湾の素顔、郷土文化、歴史的歩み、人々の暮らしぶりなど、これらをふまえて日本という国家を眺めてみると、より幅のある考察ができると思います。同時に、日本と台湾の関係のみならず、少し範囲を広げ、アジアの中における台湾、もしくは世界の中における台湾にも注目してみたいかがででしょうか。きつと多くの「思索のヒント」が得られると思います。

多方面において奥深さを持つ台湾ですが、私は今回、皆さんが手がけたツアープランを自身でもう二度見つめなおし、よりグレードの高いものを手がけてほしいと願っています。台湾は常に進化していますし、皆さんもまた、日々成長していきます。そういった要素を盛り込みながら、今回のプランを肉付けし、よりハイレベルなものに仕上げていってほしいと思います。

皆さんにとって、台湾は一つの外国に過ぎないかもしれませんが、しかし、日本と台湾の間には独特な繋がりが存在し、他国間には決して見られない結びつきを誇っています。これらを掘りおこし、学び、より多くの人に伝えていく。そういった作業を続けることは、新しい発想や豊かな思考、奥深い思慮などを生み出し、大きなものに発展していくと信じています。

今回の企画を経て皆さんが得た台湾との出会い。その「縁」を温め、より深く台湾と向き合っていくことを祈っています。どんなに大きな期待を寄せても、必ずそれ以上の何かを旅人に与えてくれる土地。親しき隣国・台湾で皆さんをお待ちしています。

第21回日台文化交流 青少年スカラシップ 実施報告書
発行・編集:産経新聞社



主催

 産経新聞社

共催

台北駐日経済文化代表処

協賛

JR東海

 MITSUI & CO.

EVA AIR 

 プラスの力になる
台湾新聞
台湾と日本の架け橋 日本語と北京語の両方で読める台湾新聞



<https://adv.sankei.com/scholarship/>